

厚生労働科学研究費補助金
(エイズ対策政策研究事業)

HIV 感染症を合併した血友病患者に対する
全国的な医療提供体制に関する研究

令和元年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 野田 龍也
(奈良県立医科大学 公衆衛生学講座)

令和2年(2020)年3月

総括・分担研究報告書目次

目 次

I. 総合研究報告		
HIV感染症を合併した血友病患者に対する 全国的な医療提供体制に関する研究	-----	1
野田 龍也		
II. 資料一覧	-----	7
【参考資料 1】 NDB 集計に使用したマスタ (最終版)	-----	8
【資料 1】 最終定義に基づいた NDB による血液凝固異常症患者数集計結果	-----	12
【参考資料 2】 人工関節置換術 (膝・股) と術後感染の診療行為	-----	13
【資料 2】 人工関節置換術 (股・膝) 後の併存疾患	-----	17
【資料 3】 人工関節置換術 (股・膝) 後の感染	-----	18
【資料 4】 HIV 感染症集計	-----	19
血液凝固異常症かつ HIV 感染症集計	-----	20
血液凝固異常症集計	-----	21
糖尿病集計	-----	22
【資料 5】 がん病名集計_HIV 感染症	-----	23
がん病名集計_糖尿病上位 35	-----	24
がん病名集計_液凝固異常症	-----	25
がん病名集計_液凝固異常症かつ HIV 感染症上位 35	-----	26
【資料 6】 エイズ動向委員会 NDB 資料解説	-----	27
エイズ動向委員会提出集計表	-----	30
【資料 7】 第 154 回エイズ動向委員会提出資料_奈良医大野田	-----	40
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	65

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

総括・分担研究報告書

HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究

研究代表者	野田 龍也	奈良県立医科大学 准教授
研究分担者	西岡 祐一	奈良県立医科大学 助教
	明神 大也	奈良県立医科大学 博士課程
研究協力者	天野 景裕	東京医科大学 臨床検査医学分野 血液凝固異常症遺伝子研究 寄附講座 教授
	伊藤 俊広	独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター 感染症内科医長/HIV/AIDS 包括医療センター室長
	今村 知明	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 教授
	遠藤 知之	北海道大学病院・血液内科 講師
	岡 敏明	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院 小児科臨床顧問/ 血友病センター長
	嶋 緑倫	奈良県立医科大学 小児科 教授
	白幡 聡	社会医療法人北九州病院 北九州八幡東病院
	藤井 輝久	広島大学病院 輸血部 准教授
	松下 正	名古屋大学医学部附属病院輸血部 教授
	荻原 建一	奈良県立医科大学 小児科
	久保 慎一郎	奈良県立医科大学 附属病院

研究要旨

本研究は、HIV 感染者、特に血液凝固異常症（血友病等）を合併した HIV 感染者が受けている治療の標準的な姿を明らかにするとともに、血液凝固異常症全国調査事業など、通常の調査・支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者に、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）による悉皆調査の光を当て、適切な社会・医療介入へつなげることを目的としている。NDB は、毎年 1 億人を超える受診者数の保険診療情報をほぼすべて格納した悉皆データベースである。本研究は、特定の疾患を対象に NDB 分析の新技术を適用する初の研究として始まった。

本研究の特色は、全国各地の HIV 感染症及び血液凝固異常症の臨床専門家が参画していることにある。このことにより、単なるデータ分析に留まらず、HIV 感染症や血液凝固異常

症等の医療提供体制の地域差や年齢、併存疾患の分布、適正処方や検査の実態等の具体的な議論が可能であり、HIV 感染症を合併した血液凝固異常症患者への医療体制に係る現在の課題を抽出することができる。

2017 年度は、2 回の班会議を開催し、HIV 感染症及び血液凝固異常症における医療提供体制の地域差や年齢階級分布、医療機関種別による分布の差、併存疾患の分布、適正処方の実態等について論点を抽出、整理した。

2018 年度は NDB を用いて血液凝固異常症および HIV 感染者数を集計し、既存の患者調査等との数値の比較を行った。また、地域ごとの患者数について、班員が把握する患者数との整合性を確認し、NDB の集計により患者数がおおむね違和感なく再現できることを確認した。特に標準治療から外れている可能性のある投薬を受けている HIV 感染者の全国分布を初めて集計できたことは、通常の調査・支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者に悉皆調査の光を当てるといふ本研究の目的につながる知見であると考えられた。

2019 年度は終結的な分析を行い、集計要件の精緻化や患者定義の較正により、受療状況の正確な把握を行い、本研究目的がおおむね達成されたことを示すとともに、今後への提言をまとめた。

なお、本研究は、HIV 感染者だけではなく、血液凝固異常症を合併した HIV 感染者を特段の対象としているが、これは厚労科研の公募要項に沿ったものであり、当研究班が独自に設定した課題ではない。

A. 研究目的

HIV 感染症を合併した血液凝固異常症患者（主には薬害エイズの当事者）は、発症の経緯や疾病の特性から、人生の相当期間を HIV 診療及び血液凝固異常症診療とともに過ごしている。治療手段の進展により、HIV 感染症は慢性疾患化しつつあり、中長期的な対応が臨床、行政上の課題となっている。

わが国では、生活保護による医療扶助、治験、全額公費負担の治療を除くすべての診療報酬情報が、2009 年 4 月から、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) として蓄積されている。NDB は世界最大級の健康情報データベースであり、一般的なコホート集団では扱えない稀な疾患や稀な状況を扱うことが可能である。類似のデータベースとして JMDC Claims Database や限られた集団（企業健保等）のレセプトがあるが、NDB は全国代表性を有し、標本サイズが数十倍～数万倍である点でまったく異なるデータベースと言える。本研究は、この NDB を利用し、HIV 感染症を合併した血液凝固異常症患者への医療提供状況を網羅的に分析するものである。

本研究の目的は、先人の尽力により積み重ねられた現在の医療体制と歴史的な経緯を踏まえ

つつ、HIV 感染症を合併した血液凝固異常症患者が受けている治療の姿を全国を網羅する形で明らかにするとともに、通常の調査や支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者に悉皆調査の光を当て、適切な医療や支援につなげることである。

B. 研究方法

B.1 実施体制と実施スケジュール

本研究は、HIV 感染症及び血液凝固異常症に関する学会や全国各地域で活動する臨床専門家および、NDB の専門家から構成される。研究代表者（野田）のほか、HIV 感染症及び血液凝固異常症の専門家として、天野景裕（東京医科大学）、伊藤俊広（仙台医療センター）、遠藤知之（北海道大学）、岡敏明（札幌徳洲会病院）、嶋緑倫、荻原建一（奈良県立医科大学）、白幡聡（北九州八幡東病院）、藤井輝久（広島大学）、松下正（名古屋大学）が参画した。NDB 分析は、奈良県立医科大学の今村知明、久保慎一郎、西岡祐一、明神大也が担当した。本研究班は、薬害エイズ当事者に対する社会的・医療的な支援体制の検討は当研究班の直接の担当ではないが、研究の遂行にあたっては、関連する他の研究班とも情報共有を行った。

が、研究の遂行にあたっては、関連する他の研究班とも情報共有を行った。

研究期間は平成 29 年度からの 3 年間である。

最終年度となる令和元年度は、NDB による患者数推計の精緻化、血液製剤及び抗 HIV 薬の処方分布や処方組み合わせ、新薬の処方状況の分析を行った。血液凝固異常症患者の分析としては、併存疾患（基礎疾患たる悪性腫瘍の併存を含む。）の内訳などの社会的な懸案事項の推計にも取り組んだ。HIV/AIDS の分析としては、横幕班との強い連携のもと、抗 HIV 薬の処方状況を全国的に正確に把握するとともに、C 型肝炎や悪性腫瘍などの併存疾患について、有病率や治療状況、予後まで含めた受療状況の把握を行い、エイズ動向委員会への報告を行った。

1～3 年目のいずれにおいても、行政機関や関係各所への積極的なヒアリングを実施した。

B.2 倫理面への配慮

本研究では完全に匿名化された個票を用い、個人情報や動物愛護に関わる調査・実験は行わない。研究の遂行にあたっては、各種法令や「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を含めた各種倫理指針等の遵守に努める。また、厚生労働省保険局を始めとする関係各所の定めた規定・指針等を遵守し、必要な申請を行う。また、実施にあたっては、奈良県立医科大学医の倫理審査委員会の許可を得た。

C. 研究結果

(1) NDB における血液凝固異常症等患者定義の決定

3 年間の研究を経て、本研究における血液凝固異常症の定義を以下に決定した。

NDB における血液凝固異常症定義は、集計期間中に血液凝固異常症関連傷病名（参考資料 1 「血液凝固異常症病名マスタ」参照）の病名を付与され、かつの血液凝固異常症に関する薬剤（参考資料 1 「血液凝固異常症医薬品マスタ」参照）を処方された者とした。ただし、PPSB、フィブリノゲン、フィブログミンP に関しては、入院での処方の有無を問わず、外来での処方のみとする。※ ただし、「血液凝固異常症の関連病名」からアンチトロンビン欠乏症を示す病名（「アンチトロンビンⅢ欠乏症」（8830404）、「アンチトロンビン欠乏症」（8847158）の 2 つ）を除外する。血液凝固異常症の最終定義に基づく

2013 年 4 月から 2018 年 3 月の 5 年分の集計結果を昨年度までの定義と比較した資料を資料 1 に示す。

(2) 全人工股関節置換術 (THA) および全人工膝関節置換術 (TKA) 実施状況およびその予後

血液凝固異常症および HIV/AIDS 感染症において、人工関節置換術（股・膝）の実施状況および実施後の併存疾患状況（死亡を含む）、本集計に当たっては、以下を行った、

1. 日本全体の全人工股関節置換術 (THA)、全人工膝関節置換術 (TKA) を抽出。抽出の対象の診療行為コードは以下とする。
150050410 人工関節置換術 (股)
150050510 人工関節置換術 (膝)
2. 人工関節置換術 (膝・股) の術後感染については、参考資料 2 に記載した診療行為が行われている場合と定義する。
3. 集計対象期間を 2013 年 4 月～2018 年 3 月の 5 年間とし、「感染あり」は手術施行後（最大 5 年間）とする。

結果を資料 2, 3 に示す。

加えて、4 つの集団 (a HIV 感染症全体、b 血液凝固異常症、c HIV 感染症かつ血液凝固異常症、d 糖尿病 (全国の 760 万人)) それぞれについて、降圧薬の処方、糖尿病薬の処方、DVT・PE の合併 (疑いを含む病名による集計)、入院中の DVT・PE の合併 (疑い病名を含む)、人工関節置換術 (股・膝) の施行、骨折手術の発生、骨粗鬆症薬の処方、MRI・CT の施行、C 型肝炎薬処方の実施状況の集計を行った (資料 4)。

これらの集計結果についてはまだ検討の余地があり、合併症に関する集計をより精緻化するためには、それぞれの定義について、さらなる精緻化が必要である。

(3) がんの併存状況

(2) 以外の疾患として、がんも検討された。後天性血液凝固異常症の基礎疾患ががんであるため、がんの併存状況を集計するためには、後天性血液凝固異常症を除く必要がある。がん患者の定義 (患者定義 D) を、抗悪性腫瘍薬を 1 回でも投与されたことのある患者と本研究におけるがん患者と定義とし、以下について集計を行った。

4 つの集団 (a HIV 感染症全体、b 血液凝固異常症、c HIV 感染症かつ血液凝固異常症、

d 糖尿病（全国の760万人）それぞれについて、がん病名コードごとの患者数を資料5に示す。

これらの集計結果についても、(2)と同様、まだ検討の余地があり、がんの定義について、さらなる精緻化が必要である。

(4) エイズ動向委員会への報告

上記に基づくNDBデータを用いた集計結果を令和元年8月29日に実施された第153回エイズ動向委員会および第154回エイズ動向委員会に提出した。(資料6および資料7) NDB集計は従来の委員会報告を置き換えるものではないが、NDBと感染症法届け出が並立することで、報告値の正確さが増すこと、特に、国際的なHIV医療指標である90-90-90の一部を半自動的に測定できることを示した。提出した主な結果は以下である。

- ・ HIV感染者（抗HIV薬被処方者）の現在の継続通院者数（全国数、性年齢階級別、都道府県別）

- ・ 新規のHIV感染者（抗HIV薬被処方者）数
- ・ 継続通院数及び新規のHIV感染者（抗HIV薬被処方者）（都道府県別・ブロック別）
- ・ HIV感染者の現在までの累積患者数
- ・ HIV感染者の死亡数
- ・ HIV感染者の年齢調整死亡率（糖尿病患者集団との比較）

また、上記において、糖尿病患者を基準とした時の抗HIV薬処方患者（糖尿病合併者を除く）のSMRが57であり、糖尿病患者よりHIV患者の方が、死亡率が低いことを示した。これは、HIV患者は糖尿病患者より死亡のスピードが緩やかであること、HIV患者の治療法が糖尿病患者の治療よりよく管理されている可能性を示唆する。

D. 考察

血液凝固異常症の分析としては、血液凝固異常症の定義を2013年度から2017年度までの5年間のNDBを用いて再検討し、確定した。血液凝固異常症、HIV感染症の両疾患に関して、確定した定義を参考資料1に示す。また、これらの疾患定義に当てはまる患者に関して、糖尿病や悪性腫瘍などの併存疾患について、有病率や治療状況、予後まで含めた受療状況を把握した。

E. 結論

レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いて、HIV感染症を合併した血液凝固異常症患者及び彼らの受療状況について、全国悉皆的な把握を試みた。主な結果については、エイズ動向委員会に報告し、一定の評価を得ることができた。

本研究は、悉皆性の高い世界最大級のヘルスデータベースを用いて、比較的患者数の少ない疾患の医療受療状況を明らかにする研究であり、同様の標本サイズでの研究は海外に存在せず、学術的・国際的な意義は大きいと考える。また、歴史的な経緯を有する疾患の受療状況についての初の全国悉皆分析であり、社会的な意義は小さくないと考える。

本研究により、NDBにおける血液凝固異常症患者およびHIV患者の定義が、一定程度精緻化され、HIV感染症を合併した血液凝固異常症患者/HIV感染者/血液凝固異常症患者の死亡率、高血圧（降圧剤処方）、糖尿病（糖尿病薬処方）、癌（病名）、DVT・PE（病名）の合併状況が明らかになった。たとえば糖尿病患者を基準とした時の抗HIV薬処方患者のSMRは57であり、糖尿病患者よりHIV患者の方が、死亡率が低いことが示された。これは、HIV患者は糖尿病患者より長生きであること、HIV患者の治療法が糖尿病患者の治療よりよく管理されている可能性を示唆する。血液凝固異常症、HIV感染症へのスティグマを取り除くためにも得られた疫学研究成果を積極的に発信していきたい。

レジメンについては正確な集計が可能である一方で、薬剤は複数の異なる目的で処方されるため、特定の治療目的で処方した薬剤の処方状況を見るためには、入院時の一時的な処方を除くといった精緻化が必要であることが分かった。今後は、ヘムライブラ等の新規製剤の処方状況（特に子どもへの処方実態）を全国網羅的に把握できれば、臨床家へのフィードバックと行政施策への反映の両方において有益である。また、医師による新薬の採用動向について、特に、ゼリットの寄与歴のある患者についてミトコンドリア障害の発生リスクが高いという既存の研究結果をNDBで検証することができれば興味深い。頭蓋内出血の重要な基礎疾患である高血圧の管理状況や、歯科レセプトを用いた抜歯の実施状況を把握するなど、血液凝固異常症患者の合併症管理を含めた包括的な受療・予防の全体像をNDB分析により把握することも有益であると考えられる。

一方で、処方や治療の均てん化の目的でNDB

分析を実施するためには、地域別等、詳細な集計が必要であり、集計が詳細になるほど、患者数が10未満のセルが増え、NDB利用にあたっての最小集計単位の原則に抵触するという問題に直面する。これは、NDB分析を行うにあたっての解決すべき課題である。

また、本研究は今年度が最終年度であるため、3年間の達成度と今後への提言を下記の通りまとめた：

本研究の目的は、(1)HIV感染者/AIDS患者及び血液凝固異常症患者が受けている治療の姿を全国を網羅する形で明らかにすること、(2)通常の調査や支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者に悉皆調査の光を当て、適切な医療や支援につなげること、の2つである。

(1)HIV感染者/AIDS患者及び血液凝固異常症患者が受けている治療の姿を全国を網羅する形で明らかにすること

HIV感染者/AIDS患者については、この目的はほぼ達成された。HIV感染者/AIDS患者の疾患定義をNDB上で構築することにほぼ成功し、医療機関をまたいだ受診や各患者の処方状況、併存疾患の有無を匿名のまま把握・追跡できる仕組みが構築された。また、エイズ動向委員会提出資料のように、従来統計では把握しづらかった新規患者（罹患率）や死亡率についても、一定の妥当性をもって算出できることが示されている。NDBはデータベースであるため、一定の分析手法を開発しておけば、患者や医療専門職に追加負担をかけることなく、各種の追加分析や過去の再分析が容易となる点が大きな強みである。

血液凝固異常症患者についても、NDBによる疾患定義の構築にほぼ成功し、処方状況や各種の併存疾患を全国網羅的に把握することができるようになった。一方、血液凝固異常症患者治療における重要な指標である血液製剤の定期補充療法については、NDBでの定義付けは十分ではない。NDBの処方情報において、頓服頓用などの臨時・不規則の薬剤使用（処方ではなく内服・注射等の実際の使用）と定期補充療法のような定期的な薬剤使用を区別することはまだ困難であり、今後の研究における課題として残っている。

今後、レセプトを用いて地域・全国におけるHIV感染者/AIDS患者または血液凝固異常症患

者を集計する場合には、本研究班のまとめた「【参考資料1】NDB集計に使用したマスタ（最終版）」を用いることが望ましいと考える。

(2)通常の調査や支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者に悉皆調査の光を当て、適切な医療や支援につなげること

NDBは保険診療の悉皆調査であるため、保険診療を受けている限り、全国のいずれの医療機関を受診しても、処方状況その他のレセプト情報を把握できる。NDB分析では、従来の抽出調査に基づく病院単位、製薬企業単位の調査に比べ、調査の妥当性を飛躍的に向上させることが可能となった。

本研究でも、より適切な処方が存在する可能性のある少数の患者が集計結果にて散見され、本研究の目的を技術的には達成できることが明らかとなった。しかし、NDBでは個人情報保護の観点から、該当する患者数が10未満の集計結果を公表できないという制限がある。そのため、集計者（研究代表者ら）には、「通常の調査や支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者」の存在が見えるが、外部への公表はできない状態であった。NDBの公表基準は2020年度中の変更が見込まれており、「具体的な数値は示さないまでも、当該患者がある地域に存在することを定性的に示す」ことにより、患者の福利厚生により即した治療への誘導を期待するといった工夫が構築されるべきである。これは今後の研究における喫緊の課題であると考えられる。

F. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）
なし

G. 研究発表

G.1 論文

1. 西岡祐一，野田龍也，今村知明.
世界最大の医療ビッグデータNDB（ナショナルデータベース）の活用と今後の展望.
日本整形外科学会雑誌 93:959-979 2019.

G.2 口頭発表

1. 西岡祐一，西岡祐一，野田龍也，明神大也，明神大也，久保慎一郎，毛利貴子，石井均，今村知明.
日本の全保険診療患者を対象とした1型糖尿病発症率に関する記述疫学研究. 日本公

衆衛生学会、2019年、高知。

2. 西岡祐一、岡田定規、野田龍也、久保慎一郎、明神大也、東野恒之、峯昌啓、福島由子、小泉実幸、中島拓紀、中上純子、紙谷史夏、毛利貴子、栗田博仁、赤井靖宏、今村知明、石井均。
レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いた臨床研究：糖尿病患者における重症低血糖と急性冠症候群リスクの関連。日本糖尿病学会、2019年、宮城。
3. 明神大也、明神大也、野田龍也、西岡祐一、西岡祐一、久保慎一郎、大寺祥佑、加藤源太、毛利貴子、石井均、今村知明。
ナショナルデータベース(NDB)の活用：糖尿病薬開始率とその患者数。日本公衆衛生学会、2019年、高知。
4. 明神大也、大林千穂、吉澤明彦、野田龍也、久保慎一郎、西岡祐一、西岡祐一、今村知明。
病理分野におけるNDB解析の展望：病理検査と病理診断時の胃摘出術までの日数比較。日本病理学会、2019年、東京。
5. 明神大也、西岡祐一、野田龍也、久保慎一郎、東野恒之、峯昌啓、福島由子、小泉実幸、中島拓紀、中上純子、紙谷史夏、栗田博仁、毛利貴子、岡田定規、赤井靖宏、石井均、今村知明。
レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いた1億人規模の臨床研究：日本の保険診療糖尿病患者の死亡率。日本糖尿病学会、2019年、宮城。
6. 明神大也、次橋幸男、久保慎一郎、西岡祐一、中西康裕、降旗志おり、東野恒之、野田龍也、今村知明。
国保データベースを用いた医療レセプトと介護レセプト連結における名寄せの課題。医療情報学連合大会、2019、千葉。
7. 明神大也、野田龍也、久保慎一郎、西岡祐一、東野恒之、今村知明。
NDB利用促進に向けた取り組み- 1患者1データ化 -。第23回日本医療情報学会春季学術大会、2019、熊本。

資料一覧

【参考資料 1】 NDB 集計に使用したマスタ（最終版）

【資料 1】 最終定義に基づいた NDB による血液凝固異常症患者数集計結果

【参考資料 2】 人工関節置換術（膝・股）と術後感染の診療行為

【資料 2】 人工関節置換術（股・膝）後の併存疾患

【資料 3】 人工関節置換術（股・膝）後の感染

【資料 4】 HIV 感染症集計

血液凝固異常症かつ HIV 感染症集計

血液凝固異常症集計

糖尿病集計

【資料 5】 がん病名集計_HIV 感染症

がん病名集計_糖尿病上位 35

がん病名集計_血液凝固異常症

がん病名集計_血液凝固異常症かつ HIV 感染症上位 35

【資料 6】 エイズ動向委員会 NDB 資料解説

エイズ動向委員会提出集計表

【資料 7】 第 154 回エイズ動向委員会提出資料_奈良医大野田

血液凝固異常症医薬品マスタ

参考資料1

医薬品コード	医薬品名	患者定義条件
621154301	P P S B - H T 静注用 2 0 0 単位「ニチャク」（溶解液付）	入院のみは除外
621154501	P P S B - H T 静注用 5 0 0 単位「ニチャク」（溶解液付）	入院のみは除外
622488101	アディノバイト静注用 1 0 0 0 1, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622488201	アディノバイト静注用 2 0 0 0 2, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622488001	アディノバイト静注用 5 0 0 5 0 0 国際単位（溶解液付）	
621769901	アドバイト静注用 1 0 0 0 1, 0 0 0 単位（溶解液付）	
622440101	アドバイト静注用 1 5 0 0 1, 5 0 0 単位（溶解液付）	
621984102	アドバイト静注用 2 0 0 0 2, 0 0 0 単位（溶解液付）	
621769701	アドバイト静注用 2 5 0 2 5 0 単位（溶解液付）	
621769801	アドバイト静注用 5 0 0 5 0 0 単位（溶解液付）	
622526301	イデルビオン静注用 1 0 0 0 1, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622526401	イデルビオン静注用 2 0 0 0 2, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622526101	イデルビオン静注用 2 5 0 2 5 0 国際単位（溶解液付）	
622526201	イデルビオン静注用 5 0 0 5 0 0 国際単位（溶解液付）	
622403101	イロクテイト静注用 1 0 0 0 1, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622403201	イロクテイト静注用 1 5 0 0 1, 5 0 0 国際単位（溶解液付）	
622403301	イロクテイト静注用 2 0 0 0 2, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622402801	イロクテイト静注用 2 5 0 2 5 0 国際単位（溶解液付）	
622403401	イロクテイト静注用 3 0 0 0 3, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622402901	イロクテイト静注用 5 0 0 5 0 0 国際単位（溶解液付）	
622403001	イロクテイト静注用 7 5 0 7 5 0 国際単位（溶解液付）	
622364201	オルプロリクス静注用 1 0 0 0 1, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622364301	オルプロリクス静注用 2 0 0 0 2, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622426501	オルプロリクス静注用 2 5 0 2 5 0 国際単位（溶解液付）	
622364401	オルプロリクス静注用 3 0 0 0 3, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622364101	オルプロリクス静注用 5 0 0 5 0 0 国際単位（溶解液付）	
620009264	クリスマシンM静注用 1 0 0 0 単位 1, 0 0 0 単位（溶解液付）	
620009263	クリスマシンM静注用 4 0 0 単位（溶解液付）	
621154006	クロスエイトMC静注用 1 0 0 0 単位 1, 0 0 0 単位（溶解液付）	
622454901	クロスエイトMC静注用 2 0 0 0 単位 2, 0 0 0 単位（溶解液付）	
621153808	クロスエイトMC静注用 2 5 0 単位（溶解液付）	
621153909	クロスエイトMC静注用 5 0 0 単位（溶解液付）	
620003213	コージネイトFSバイオセット注 1 0 0 0 1 0 0 0 国際単位溶解液付	
621990601	コージネイトFSバイオセット注 2 0 0 0 2 0 0 0 国際単位溶解液付	
620003211	コージネイトFSバイオセット注 2 5 0 2 5 0 国際単位（溶解液付）	
620003212	コージネイトFSバイオセット注 5 0 0 5 0 0 国際単位（溶解液付）	
622489501	コバールトリイ静注用 1 0 0 0 1, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622489601	コバールトリイ静注用 2 0 0 0 2, 0 0 0 国際単位（溶解液付）	
622489301	コバールトリイ静注用 2 5 0 2 5 0 国際単位（溶解液付）	

医薬品コード	医薬品名	患者定義条件
622489701	コバールトリイ静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	
622489401	コバールトリイ静注用500 500国際単位(溶解液付)	
621154003	コンファクトF注射用1000 1,000単位(溶解液付)	
621153804	コンファクトF注射用250 250単位(溶解液付)	
621153904	コンファクトF注射用500 500単位(溶解液付)	
622408301	ノバクトM静注用1000単位 1,000単位(溶解液付)	
622034201	ノバクトM静注用1600単位 1,600単位(溶解液付)	
622408401	ノバクトM静注用2000単位 2,000単位(溶解液付)	
622034001	ノバクトM静注用400単位 (溶解液付)	
622408201	ノバクトM静注用500単位 (溶解液付)	
622034101	ノバクトM静注用800単位 (溶解液付)	
622333201	ノボエイト静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	
622333301	ノボエイト静注用1500 1,500国際単位(溶解液付)	
622333401	ノボエイト静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	
622333001	ノボエイト静注用250 250国際単位(溶解液付)	
622333501	ノボエイト静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	
622333101	ノボエイト静注用500 500国際単位(溶解液付)	
622424901	ノボサーティーン静注用2500 2,500国際単位(溶解液付)	
622424901	ノボサーティーン静注用2500 2,500国際単位(溶解液付)	
621929201	ノボセブンHI静注用1mg 1mL(溶解液付)	
622366301	ノボセブンHI静注用1mg シリンジ 1mL(溶解液付)	
621929301	ノボセブンHI静注用2mg 2mL(溶解液付)	
622366401	ノボセブンHI静注用2mg シリンジ 2mL(溶解液付)	
621929401	ノボセブンHI静注用5mg 5mL(溶解液付)	
622366501	ノボセブンHI静注用5mg シリンジ 5mL(溶解液付)	
622366601	ノボセブンHI静注用8mg シリンジ 8mL(溶解液付)	
622367201	バイクロット配合注 第7a因子1.5mg第X因子15mg 溶解液付	
621384901	ファイバ静注用1000 1,000単位20mL(溶解液付)	
621384801	ファイバ静注用500 500単位10mL(溶解液付)	
621157504	フィブリノゲンHT静注用1g「JB」(溶解液付)	入院のみは除外
620009274	フィブリノゲンHT静注用1g「ベネシス」(溶解液付)	入院のみは除外
620009198	フィブロガミンP静注用 正常人血漿1mL中含有量240倍溶解液付	入院のみは除外
621971701	ベネフィクス静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	
621971801	ベネフィクス静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	
622273601	ベネフィクス静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	
621971601	ベネフィクス静注用500 500国際単位(溶解液付)	
646340028	乾燥人フィブリノゲン 1g(溶解液付)	入院のみは除外

血液凝固異常症関連傷病名

傷病名コード	血友病関連傷病名
2860001	血友病
2860002	血友病 A
2861002	血友病 B
2863004	プロトロンビン欠乏症
2863010	パラ血友病
2864002	フォンヴィレブランド病
2866028	フィブリノゲン欠乏症
2867001	後天性凝固因子欠乏症
2869004	凝固因子欠乏症
2869021	先天性血液凝固因子異常
7132002	血友病関節炎
8833200	血友病性出血
8833586	後天性低プロトロンビン血症
8836288	先天性第 X 因子欠乏症
8836289	先天性第 X I I 因子欠乏症
8836290	先天性第 X I I I 因子欠乏症
8836376	先天性無フィブリノゲン血症
8837880	低トロンビン血症
8839602	フィブリノゲン異常症
8839603	フィブリノゲン減少症
8841336	プロテイン C 欠乏症
8841337	プロテイン S 欠乏症
8845658	後天性血友病 A
8845659	後天性血友病 B
8845702	第 V I I I 因子インヒビター陽性先天性血友病
8845703	第 I X 因子インヒビター陽性先天性血友病
8845955	新生児低プロトロンビン血症
8847752	後天性第 X I I I 因子欠乏症
8847783	先天性第 X I 因子欠乏症
8847221	先天性第 VII 因子欠乏症

HIV感染症医薬品マスタ

医薬品コード	HIV薬名称	略名	一般名	作用機序	1錠あたりの容量	配合剤	薬価(円、20190702)	薬価(円、その他)	薬価(暫定)
620005140	レトロビルカプセル100mg	AZT(ZDV)	ジドブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	100	0 AZT(ZDV)	284.4		284.4
610443081	ヴァイデックスECカプセル125 125mg	ddL	ジダノシン	核糖系逆転写酵素阻害剤	125	0 ddL	#N/A	948.2	948.2
610443082	ヴァイデックスECカプセル200 200mg	ddL	ジダノシン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	0 ddL	#N/A	1393.4	1393.4
62000426	エビビル錠150 150mg	3TC_150mg	ラミブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	150	0 3TC_150mg	801.8		801.8
62000426	エビビル錠300 300mg	3TC_300mg	ラミブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	0 3TC_300mg	1571.1		1571.1
610412192	ゼリットカプセル15 15mg	d4T	ザコルブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	15	0 d4T	#N/A	390.8	390.8
610412193	ゼリットカプセル20 20mg	d4T	ザコルブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	20	0 d4T	#N/A	391.8	391.8
621144201	コンビル配合錠	COM	ジドブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	1 AZT(ZDV)	1518.3		1518.3
621144201	コンビル配合錠	COM	ラミブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	150	1 3TC	1518.3		1518.3
620004998	ザリアジェン錠300mg	ABC	アバカビル	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	0 ABC	821		821
620001903	ビリアド錠300mg	TDF	フマル酸テノホビルジソプロキシシル	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	0 TDF	2044.8		2044.8
621657001	エブジコム配合錠	EZC	アバカビル	核糖系逆転写酵素阻害剤	600	1 ABC	3961.8		3961.8
621657001	エブジコム配合錠	EZC	ラミブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	1 3TC	3961.8		3961.8
620002488	エムトリノカプセル200mg	FTC	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	0 FTC	1659.8		1659.8
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	フマル酸テノホビルジソプロキシシル	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	1 TDF	3863.6		3863.6
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	1 FTC	3863.6		3863.6
610421341	ピラミューン錠200 200mg	NVP	ネビラピン	非核糖系逆転写酵素阻害剤	200	0 NVP	787.2		787.2
620006943	ストックリン錠600mg	EFV	エファビレンツ	非核糖系逆転写酵素阻害剤	600	0 EFV	1526.8		1526.8
621932401	ストックリン錠200mg	EFV	エファビレンツ	非核糖系逆転写酵素阻害剤	200	0 EFV	535.2		535.2
620009086	インテレンス錠100mg	ETR	エトラビリン	非核糖系逆転写酵素阻害剤	100	0 ETR	636.4		636.4
622149101	エジュラント錠25mg	RPV	リルビリン	非核糖系逆転写酵素阻害剤	25	0 RPV	2108.7		2108.7
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	1 FTC	5815.9		5815.9
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	リルビリン	非核糖系逆転写酵素阻害剤	25	1 RPV	5815.9		5815.9
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	フマル酸テノホビルジソプロキシシル	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	1 TDF	5815.9		5815.9
620004975	クリキサンカプセル200mg	IDV	硫酸インジナビル	プロテアーゼ阻害剤	200	0 IDV	#N/A	103.3	103.3
620003516	インビラーゼカプセル200mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害剤	200	0 SQV	#N/A	130.1	130.1
620004347	インビラーゼ錠500mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害剤	500	0 SQV	#N/A	362.9	362.9
621143701	ピラセプト錠250mg	NFV	メシル酸ネルフィナビル	プロテアーゼ阻害剤	250	0 NFV	135.5		135.5
621143601	ノービア内用液8% 80mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害剤	80	0 RTV	#N/A	107.7	107.7
622054801	ノービア錠100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害剤	100	0 RTV	102.2		102.2
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	ロピナビル	プロテアーゼ阻害剤	80mg/mL	1 CPV	147.4		147.4
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害剤	20mg/mL	1 RTV	147.4		147.4
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	ロピナビル	プロテアーゼ阻害剤	200	1 CPV	322.1		322.1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害剤	5	1 RTV	322.1		322.1
620004454	レイアタツカプセル150mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害剤	150	0 ATV	568		568
620004455	レイアタツカプセル200mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害剤	200	0 ATV	765.7		765.7
620002465	レクシヴァ錠700 700mg	FPV	ホスアンプレナビルカルシウム水和物	プロテアーゼ阻害剤	700	0 FPV	793.9		793.9
620005884	プリジスタ錠300mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害剤	300	0 DRV	#N/A	442.3	442.3
622276701	プリジスタナイーブ錠800mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害剤	800	0 DRVN	1890.9		1890.9
622403501	プリジスタ錠600mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害剤	600	0 DRV	885		885
620007815	アイセントレス錠400mg	RAL	ラルデグラビルカリウム	インテグラーゼ阻害剤	400	0 RAL	1553.6		1553.6
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害剤	150	1 エルテグラビル	6942.1		6942.1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	コピシスタット	CYP3A阻害剤	150	1 コピシスタット	6942.1		6942.1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	1 FTC	6942.1		6942.1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	フマル酸テノホビルジソプロキシシル	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	1 TDF	6942.1		6942.1
622336201	デビケイ錠50mg	DTG	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害剤	50	0 DTG	3248.5		3248.5
622408801	トリメク配合錠	TRI	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害剤	50	1 DTG	6972.3		6972.3
622408801	トリメク配合錠	TRI	アバカビル	核糖系逆転写酵素阻害剤	600	1 ABC	6972.3		6972.3
622408801	トリメク配合錠	TRI	ラミブジン	核糖系逆転写酵素阻害剤	300	1 3TC	6972.3		6972.3
620009087	シーエルセントリ錠150mg	MVC	マラビロク	CCR5阻害剤	150	0 MVC	2334.5		2334.5
621930301	プリジスタナイーブ錠400mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害剤	400	0 DRVN	#N/A	921.9	921.9
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	テノホビルアララフェナミド	核糖系逆転写酵素阻害剤	10	1 TAF	2748.2		2748.2
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	1 FTC	2748.2		2748.2
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	テノホビルアララフェナミド	核糖系逆転写酵素阻害剤	25	1 TAF	3934.3		3934.3
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	1 FTC	3934.3		3934.3
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	ダルナビル	プロテアーゼ阻害剤	800	1 DRVN	2002.8		2002.8
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	コピシスタット	CYP3A阻害剤	150	1 コピシスタット	2002.8		2002.8
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害剤	150	1 エルテグラビル	6942.1		6942.1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	コピシスタット	CYP3A阻害剤	150	1 コピシスタット	6942.1		6942.1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エムトリシタピン	核糖系逆転写酵素阻害剤	200	1 FTC	6942.1		6942.1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	フマル酸テノホビルアララフェナミド	核糖系逆転写酵素阻害剤	10	1 TAF	6942.1		6942.1
610409330	ハイビッド錠0.375	ddC	ザルシタピン	2008年3月販売中止	0.375	0 ddC	#N/A	770	770

最終定義に基づいたNDBによる血液凝固異常症患者数集計結果

資料1

		旧定義	新定義	血友病	血友病A	血友病B	プロトロンピン欠乏症	パラ血友病	フォンヴィレブランド病	フィブリノゲン欠乏症	後天性凝固因子欠乏症	凝固因子欠乏症	先天性血液凝固因子異常	血友病関節炎	血友病性出血	後天性低プロトロンビン血症	先天性第X因子欠乏症	先天性第XIII因子欠乏症	先天性第XIII因子欠乏症	先天性無フィブリノゲン血症	低プロトロンビン血症	フィブリノゲン異常症	フィブリノゲン減少症	プロテインC欠乏症	プロテインS欠乏症	後天性血友病A	後天性血友病B	第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病	第IX因子インヒビター陽性先天性血友病	新生児低プロトロンビン血症	後天性第XIII因子欠乏症	先天性第XI因子欠乏症	先天性第VII因子欠乏症					
男性	0~4歳	612	303	140	238	95			78			40		37	40																				38			
	5~9歳	544	481	154	378	92			78			48		150	61																				51			
	10~14歳	493	468	115	358	78			58			35		210	77																					28		
	15~19歳	565	521	120	372	114			61			39		258	62																					21		
	20~24歳	494	458	96	341	105			43			25	12	234	51																					23		
	25~29歳	483	454	93	339	96			36			23	14	189	45																					17		
	30~34歳	482	456	95	351	88			47			24	26	198	54																					15		
	35~39歳	444	471	104	357	91			37			38	22	224	38																					14		
	40~44歳	446	532	110	402	102			47			38	36	265	68																					18		
	45~49歳	426	449	114	332	86			36			42	36	222	52												11									16		
	50~54歳	394	380	109	299	50			38			33	44	169	48												15									16		
	55~59歳	445	281	77	193	54			34			36	31	119	32												12									12		
	60~64歳	597	291	93	187	51			45			40	25	104	30												21									11		
	65~69歳	1001	326	113	208	48			49			46	19	89	26												41	11								15		
	70~74歳	1085	242	82	121	43			47			18	53	20	42	13											47									13		
	75~79歳	1035	214	79	83	29			37			15	52	15	31												63									10		
	80~84歳	931	177	51	67	26			26			26			17												69									13		
85~89歳	483	92	29	30	11							21														37												
90~94歳	128	19																																				
95~99歳	11																																					
100歳以上																																						
女性	0~4歳	238	12																																			
	5~9歳	91	26						19																													
	10~14歳	59	31						21																													
	15~19歳	55	30						23																													
	20~24歳	69	45		12				32																													
	25~29歳	109	62		14				50			12																										
	30~34歳	132	76	16	16				44																													12
	35~39歳	170	79	13	12				54																													
	40~44歳	172	82	10	17				56																													
	45~49歳	123	66	13	11				39				13																									
	50~54歳	124	54						39																													
	55~59歳	126	53	11	10				36				10																									
	60~64歳	160	51		11				28																													
	65~69歳	279	72	14					33																													17
	70~74歳	335	70	12	10				35																													20
	75~79歳	403	62	12	11				16																													21
	80~84歳	447	72	15					21																													39
85~89歳	296	53	16					13																													34	
90~94歳	134	34	13					12																													21	
95~99歳	21																																					
100歳以上																																						

人工関節置換術（膝・股）と術後感染の診療行為

150001010	創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径5cm未満）	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル未満））
150001110	創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径5cm以上10cm未満）	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満））
150001250	創傷処理（筋肉、臓器に達する）（長径5cm未満）	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満））
150001310	創傷処理（筋肉、臓器に達する）（長径5cm以上10cm未満）	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満））
150001470	真皮縫合加算	真皮縫合加算（露出部の創傷に限り真皮縫合を伴う縫合閉鎖を行った場合）
150001570	デブリードマン加算（汚染された挫創）	デブリードマン加算（汚染された挫創に対してデブリードマンを行った場合）
150001810	皮膚切開術（長径10cm未満）	皮膚切開術（長径10センチメートル未満）
150001910	皮膚切開術（長径10cm以上20cm未満）	皮膚切開術（長径10センチメートル以上20センチメートル未満）
150002010	皮膚切開術（長径20cm以上）	皮膚切開術（長径20センチメートル以上）
150002210	デブリードマン（100cm ² 未満）	デブリードマン（100平方センチメートル未満）
150002310	デブリードマン（100cm ² 以上3000cm ² 未満）	デブリードマン（100平方センチメートル以上3、000平方センチメートル未満）
150002410	デブリードマン（3000cm ² 以上）	デブリードマン（3、000平方センチメートル以上）
150004610	皮膚剥削術（25cm ² 未満）	皮膚剥削術（25平方センチメートル未満）
150004710	皮膚剥削術（25cm ² 以上100cm ² 未満）	皮膚剥削術（25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満）
150004910	瘢痕拘縮形成手術（その他）	瘢痕拘縮形成手術（その他）
150006410	分層植皮術（25cm ² 未満）	分層植皮術（25平方センチメートル未満）
150006510	分層植皮術（25cm ² 以上100cm ² 未満）	分層植皮術（25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満）
150006610	分層植皮術（100cm ² 以上200cm ² 未満）	分層植皮術（100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満）
150006710	分層植皮術（200cm ² 以上）	分層植皮術（200平方センチメートル以上）
150007610	皮膚移植術（生体・培養）	皮膚移植術（生体・培養）
150007770	生体皮膚移植（提供者の療養上の費用）加算	生体皮膚移植（提供者の療養上の費用）加算
150007810	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25cm ² 未満）	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25平方センチメートル未満）
150007910	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25～100cm ² 未満）	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満）
150008010	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（100cm ² 以上）	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（100平方センチメートル以上）
150008810	動脈（皮）弁術	動脈（皮）弁術
150009010	筋（皮）弁術	筋（皮）弁術
150009110	複合組織移植術	複合組織移植術
150009210	自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付き）	自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付きのもの）
150009410	筋膜切離術	筋膜切離術
150009510	筋膜切開術	筋膜切開術
150009610	筋切離術	筋切離術
150009710	股関節内転筋切離術	股関節内転筋切離術
150009810	股関節筋群解離術	股関節筋群解離術
150009910	筋炎手術（腸腰筋）	筋炎手術（腸腰筋）
150010010	筋炎手術（殿筋）	筋炎手術（殿筋）
150010110	筋炎手術（大腿筋）	筋炎手術（大腿筋）
150010210	筋炎手術（その他の筋）	筋炎手術（その他の筋）
150010610	筋肉内異物摘出術	筋肉内異物摘出術
150013410	腱移行術（その他）	腱移行術（その他のもの）
150013510	腱移植術（人工腱形成術を含む）（その他）	腱移植術（人工腱形成術を含む）（その他のもの）
150013710	骨穿孔術	骨穿孔術
150014010	骨搔爬術（大腿）	骨搔爬術（大腿）
150014210	骨搔爬術（下腿）	骨搔爬術（下腿）

150014410	骨搔爬術（膝蓋骨）	骨搔爬術（膝蓋骨）
150020710	骨内異物（挿入物を含む）除去術（大腿）	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（大腿）
150020910	骨内異物（挿入物を含む）除去術（下腿）	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（下腿）
150021110	骨内異物（挿入物を含む）除去術（膝蓋骨）	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（膝蓋骨）
150021610	骨部分切除術（大腿）	骨部分切除術（大腿）
150021810	骨部分切除術（下腿）	骨部分切除術（下腿）
150022010	骨部分切除術（膝蓋骨）	骨部分切除術（膝蓋骨）
150022710	腐骨摘出術（大腿）	腐骨摘出術（大腿）
150022910	腐骨摘出術（下腿）	腐骨摘出術（下腿）
150023110	腐骨摘出術（膝蓋骨）	腐骨摘出術（膝蓋骨）
150023610	骨全摘術（大腿）	骨全摘術（大腿）
150023810	骨全摘術（下腿）	骨全摘術（下腿）
150024010	骨全摘術（膝蓋骨）	骨全摘術（膝蓋骨）
150027710	骨切り術（大腿）	骨切り術（大腿）
150027910	骨切り術（下腿）	骨切り術（下腿）
150028110	骨切り術（膝蓋骨）	骨切り術（膝蓋骨）
150028810	偽関節手術（大腿）	偽関節手術（大腿）
150029010	偽関節手術（下腿）	偽関節手術（下腿）
150029210	偽関節手術（膝蓋骨）	偽関節手術（膝蓋骨）
150031510	骨長調整手術（骨短縮術）	骨長調整手術（骨短縮術）
150031710	骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、生体）	骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植）（生体）
150032010	関節切開術（股）	関節切開術（股）
150032110	関節切開術（膝）	関節切開術（膝）
150036310	関節内異物（挿入物を含む）除去術（股）	関節内異物（挿入物を含む。）除去術（股）
150036410	関節内異物（挿入物を含む）除去術（膝）	関節内異物（挿入物を含む。）除去術（膝）
150037210	関節滑膜切除術（股）	関節滑膜切除術（股）
150037310	関節滑膜切除術（膝）	関節滑膜切除術（膝）
150038050	膝蓋骨滑液嚢切除術	膝蓋骨滑液嚢切除術
150038250	滑液膜摘出術（股）	滑液膜摘出術（股）
150038350	滑液膜摘出術（膝）	滑液膜摘出術（膝）
150039210	関節鼠摘出手術（股）	関節鼠摘出手術（股）
150039310	関節鼠摘出手術（膝）	関節鼠摘出手術（膝）
150041810	関節切除術（股）	関節切除術（股）
150041910	関節切除術（膝）	関節切除術（膝）
150044410	非観血的関節授動術（股）	非観血的関節授動術（股）
150044510	非観血的関節授動術（膝）	非観血的関節授動術（膝）
150045310	観血的関節授動術（股）	観血的関節授動術（股）
150045410	観血的関節授動術（膝）	観血的関節授動術（膝）
150046210	観血的関節制動術（股）	観血的関節制動術（股）
150046310	観血的関節制動術（膝）	観血的関節制動術（膝）
150047110	観血的関節固定術（股）	観血的関節固定術（股）
150047210	観血的関節固定術（膝）	観血的関節固定術（膝）
150048310	関節形成手術（股）	関節形成手術（股）
150048410	関節形成手術（膝）	関節形成手術（膝）
150049170	関節挿入膜作成加算	関節挿入膜作成加算
150049510	人工骨頭挿入術（股）	人工骨頭挿入術（股）

150050410	人工関節置換術（股）	人工関節置換術（股）
150050510	人工関節置換術（膝）	人工関節置換術（膝）
150051610	四肢切断術（大腿）	四肢切断術（大腿）
150051710	四肢切断術（下腿）	四肢切断術（下腿）
150052210	四肢関節離断術（股）	四肢関節離断術（股）
150052310	四肢関節離断術（膝）	四肢関節離断術（膝）
150052950	化膿性又は結核性関節炎搔爬術（股）	化膿性又は結核性関節炎搔爬術（股）
150053050	化膿性又は結核性関節炎搔爬術（膝）	化膿性又は結核性関節炎搔爬術（膝）
150053610	断端形成術（軟部形成のみ）（その他）	断端形成術（軟部形成のもの）（その他）
150053810	断端形成術（骨形成を要する）（その他）	断端形成術（骨形成を要するもの）（その他）
150054210	ひょう疽手術（軟部組織）	ひょう疽手術（軟部組織のもの）
150054310	ひょう疽手術（骨、関節）	ひょう疽手術（骨、関節のもの）
150058810	腸骨窩膿瘍切開術	腸骨窩膿瘍切開術
150058910	腸骨窩膿瘍搔爬術	腸骨窩膿瘍搔爬術
150059410	骨盤骨搔爬術	骨盤骨搔爬術
150061910	骨盤内異物（挿入物）除去術	骨盤内異物（挿入物）除去術
150064210	骨盤切断術	骨盤切断術
150064810	臼蓋形成手術	臼蓋形成手術
150151350	四肢の血管吻合術	四肢の血管吻合術
150160610	骨盤腹膜外膿瘍切開排膿術	骨盤腹膜外膿瘍切開排膿術
150256010	人工関節再置換術（股）	人工関節再置換術（股）
150256110	人工関節再置換術（膝）	人工関節再置換術（膝）
150266970	創外固定器加算	創外固定器加算
150272610	皮膚剥削術（100cm ² 以上200cm ² 未満）	皮膚剥削術（100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満）
150272910	筋膜移植術（その他）	筋膜移植術（その他のもの）
150283810	皮膚剥削術（200cm ² 以上）	皮膚剥削術（200平方センチメートル以上）
150284010	創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径10cm以上）	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径10センチメートル以上））
150289310	骨内異物（挿入物を含む）除去術（その他）	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（その他）
150289410	骨部分切除術（その他）	骨部分切除術（その他）
150295010	骨移植術（軟骨移植術を含む、自家骨移植）	骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家骨移植）
150300310	人工関節抜去術（股）	人工関節抜去術（股）
150300410	人工関節抜去術（膝）	人工関節抜去術（膝）
150305950	骨移植術（移植用骨採取のみ、自家骨移植、棘突起）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（自家骨移植）（棘突起）
150306050	骨移植術（移植用骨採取のみ、自家骨移植、腸骨翼）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（自家骨移植）（腸骨翼）
150306150	骨移植術（移植用骨採取のみ、自家骨移植、その他）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（自家骨移植）（その他）
150308510	股関節周囲筋腱解離術（変形性股関節症）	股関節周囲筋腱解離術（変形性股関節症）
150309410	関節鏡下関節内異物（挿入物を含む）除去術（股）	関節鏡下関節内異物（挿入物を含む。）除去術（股）
150309510	関節鏡下関節内異物（挿入物を含む）除去術（膝）	関節鏡下関節内異物（挿入物を含む。）除去術（膝）
150310310	関節鏡下関節滑膜切除術（股）	関節鏡下関節滑膜切除術（股）
150310410	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）
150311210	関節鏡下滑液膜摘出術（股）	関節鏡下滑液膜摘出術（股）
150311310	関節鏡下滑液膜摘出術（膝）	関節鏡下滑液膜摘出術（膝）
150312010	関節鏡下膝蓋骨滑液嚢切除術	関節鏡下膝蓋骨滑液嚢切除術
150312310	関節鏡下関節鼠摘出手術（股）	関節鏡下関節鼠摘出手術（股）
150312410	関節鏡下関節鼠摘出手術（膝）	関節鏡下関節鼠摘出手術（膝）
150333710	全層植皮術（25cm ² 未満）	全層植皮術（25平方センチメートル未満）

150333810	全層植皮術（25cm ² 以上100cm ² 未満）	全層植皮術（25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満）
150333910	全層植皮術（100cm ² 以上200cm ² 未満）	全層植皮術（100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満）
150334010	全層植皮術（200cm ² 以上）	全層植皮術（200平方センチメートル以上）
150341750	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、生体、棘突起）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（生体）（棘突起）
150341850	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、生体、腸骨翼）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（生体）（腸骨翼）
150341950	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、生体、その他）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（生体）（その他）
150353010	難治性感染性偽関節手術（創外固定器）	難治性感染性偽関節手術（創外固定器によるもの）
150371810	遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付き）（その他）	遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付きのもの）（その他の場合）
150372010	組織拡張器による再建手術（その他）	組織拡張器による再建手術（一連につき）（その他の場合）
150380170	画像等手術支援加算（患者適合型手術支援ガイド）	画像等手術支援加算（患者適合型手術支援ガイドによるもの）
150383410	創傷処理（筋肉、臓器に達する）（長径10cm以上）（その他）	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの）（長径10センチメートル以上）（その他のもの）
150383710	骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、特殊）	骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植）（非生体）（特殊なもの）
150383810	骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植）（非生体）（その他の場合）
150383950	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、非生体、その他、棘突起）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（非生体）（その他の場合）（棘突起）
150384050	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、非生体、その他、腸骨翼）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（非生体）（その他の場合）（腸骨翼）
150384150	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、非生体、その他）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（非生体）（その他の場合）（その他）
150392050	骨移植術（自家骨又は非生体同種骨移植と人工骨移植の併施、特殊）	骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家骨又は非生体同種骨移植と人工骨移植の併施）（特殊なもの）
150392150	骨移植術（自家骨又は非生体同種骨移植と人工骨移植の併施、その他）	骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家骨又は非生体同種骨移植と人工骨移植の併施）（その他の場合）
150392250	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、非生体、特殊、棘突起）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（非生体）（特殊なもの）（棘突起）
150392350	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、非生体、特殊、腸骨翼）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（非生体）（特殊なもの）（腸骨翼）
150392450	骨移植術（移植用骨採取のみ、同種骨移植、非生体、特殊、その他）	骨移植術（移植用骨採取のみ）（同種骨移植）（非生体）（特殊なもの）（その他）
150392550	骨格筋採取（筋肉等に達する、長径5cm未満）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達するもの）（長径5センチメートル未満）
150392650	骨格筋採取（筋肉等に達する、長径5cm以上10cm未満）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達するもの）（長径5センチメートル以上10センチメートル未満）
150392750	骨格筋採取（筋肉等に達する、長径20cm以上、頭頸部）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達するもの）（長径20センチメートル以上）（頭頸部のもの）
150392850	骨格筋採取（筋肉等に達する、長径10cm以上、その他）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達するもの）（長径10センチメートル以上）（その他のもの）
150392950	骨格筋採取（筋肉等に達しない、長径5cm未満）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達しないもの）（長径5センチメートル未満）
150393050	骨格筋採取（筋肉等に達しない、長径5cm以上10cm未満）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達しないもの）（長径5センチメートル以上10センチメートル未満）
150393150	骨格筋採取（筋肉等に達しない、長径10cm以上）	骨格筋由来細胞シート心表面移植術（骨格筋採取、筋肉・臓器に達しないもの）（長径10センチメートル以上）
150396210	関節鏡下関節授動術（股）	関節鏡下関節授動術（股）
150396310	関節鏡下関節授動術（膝）	関節鏡下関節授動術（膝）

人工関節置換術（股・膝）後の併存疾患

	施行人数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用	30日以内の肺塞栓（病名）	30日以内のACS（心カテ）	30日以内の脳梗塞（脳卒中リハ算定+病名）
人工関節置換術（股）	238,155	164	11,103	1,431	26	315
うち重複発生患者に限定	31,010	31	1,845	242		62
人工関節置換術（膝）	310,128	127	12,676	2,858	36	576
うち重複発生患者に限定	72,538	55	3,869	805	17	195
	施行回数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用			
人工関節置換術（股）	270,688	166	11,670	1,504	26	319
うち重複発生患者に限定	63,543	33	2,412	315		66
人工関節置換術（膝）	388,871	129	14,041	3,077	36	587
うち重複発生患者に限定	152,181	57	5,234	1,024	17	206

※1人に複数回の対象手術が行われた場合、手術ごとに別のイベントとしてカウント（1人を複数回数えている可能性がある）

●2013-2017年度に1回以上抗HIV薬を処方された患者28549名に限定（血液凝固異常症の定義を満たした患者570名を含む）

	施行人数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用	30日以内の肺塞栓（病名）	30日以内のACS（心カテ）	30日以内の脳梗塞（脳卒中リハ算定+病名）
人工関節置換術（股）	47					
人工関節置換術（膝）	21					
	施行回数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用			
人工関節置換術（股）	57					
人工関節置換術（膝）	25					

※1人に複数回の対象手術が行われた場合、手術ごとに別のイベントとしてカウント（1人を複数回数えている可能性がある）

●2013-2017年度で血液凝固異常症の定義を満たした患者15215名に限定（抗HIV薬を処方された570名を含む）

	施行人数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用	30日以内の肺塞栓（病名）	30日以内のACS（心カテ）	30日以内の脳梗塞（脳卒中リハ算定+病名）
人工関節置換術（股）	76					
人工関節置換術（膝）	104					
	施行回数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用			
人工関節置換術（股）	88					
人工関節置換術（膝）	118					

※1人に複数回の対象手術が行われた場合、手術ごとに別のイベントとしてカウント（1人を複数回数えている可能性がある）

●2013-2017年度で血液凝固異常症の定義を満たしかつ抗HIV薬を処方された患者570名に限定

	施行人数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用	30日以内の肺塞栓（病名）	30日以内のACS（心カテ）	30日以内の脳梗塞（脳卒中リハ算定+病名）
人工関節置換術（股）						
人工関節置換術（膝）	15					
	施行回数	30日以内の死亡	30日以内に赤血球製剤を使用			
人工関節置換術（股）	10					
人工関節置換術（膝）	19					

※1人に複数回の対象手術が行われた場合、手術ごとに別のイベントとしてカウント（1人を複数回数えている可能性がある）

人工関節置換術（股・膝）後の感染

対象期間：2013年4月～2018年3月の5年間、感染ありは手術施行後（最大5年間）に感染を表す診療行為コードが発生した者を集計

●全体（血友病患者含む）		
術式	施行人数	感染あり
人工関節置換術（股）	238156	56098
人工関節置換術（膝）	310128	105731

●血友病患者		
術式	施行人数	感染あり
人工関節置換術（股）	46	14
人工関節置換術（膝）	76	21

集計期間：2013年度～2017年度 病名には疑い病名を含む

	人数	降圧薬処方	糖尿病薬処方	DVT病名(I802)	PE病名(I269)	入院中のDVT病名	入院中のPE病名	人工関節置換術施行	骨折の手術施行	骨粗鬆症薬処方	MRI撮影	C T撮影	C型肝炎薬処方	
男性	0～4歳													
	5～9歳													
	10～14歳													
	15～19歳	16												
	20～24歳	402			19						73	155		
	25～29歳	1,693	14	10	60	20	12			23	19	335	625	13
	30～34歳	2,806	60	36	102	30	16			27	59	621	981	25
	35～39歳	3,725	152	91	145	48	17	12		44	69	943	1,385	41
	40～44歳	4,793	364	202	238	84	38	17	10	73	141	1,386	2,006	65
	45～49歳	4,338	614	328	252	72	50	14		78	172	1,424	1,924	56
	50～54歳	2,885	596	288	175	46	24			68	152	1,019	1,397	48
	55～59歳	1,755	475	215	142	35	26			26	116	704	893	21
	60～64歳	1,324	427	241	116	32	30			40	112	553	731	16
	65～69歳	1,169	434	237	97	23	28			22	108	527	706	19
	70～74歳	556	256	133	59	19	16			18	66	290	375	15
	75～79歳	292	146	72	42	12	10			11	41	176	225	
	80～84歳	108	66	26	22						21	67	89	
85～89歳	35	19									26	31		
90～94歳														
95～99歳														
100歳以上														
女性	0～4歳													
	5～9歳													
	10～14歳													
	15～19歳													
	20～24歳	30										10		
	25～29歳	53									10	19		
	30～34歳	157									36	51		
	35～39歳	283	11	11	20						15	68	110	
	40～44歳	387	16	11	11						14	100	135	
	45～49歳	370	30	11	16						27	112	142	
	50～54歳	281	41	21	18						29	106	123	
	55～59歳	169	33	11							29	74	88	
	60～64歳	115	26								22	48	57	
	65～69歳	86	23	14							21	40	52	
	70～74歳	64	26	10							28	30	35	
	75～79歳	39	17								22	20	21	
	80～84歳	18									12	12	15	
85～89歳														
90～94歳														
95～99歳														
100歳以上														

血液凝固異常症かつHIV感染症集計

集計期間：2013年度～2017年度 病名には疑い病名を含む

	人数	降圧薬処方	糖尿病薬処方	DVT病名(1802)	PE病名(1269)	入院中のDVT病名	入院中のPE病名	人工関節置換術施行	骨折の手術施行	骨粗鬆症薬処方	MRI撮影	C T撮影	C型肝炎薬処方	
男性	0～4歳													
	5～9歳													
	10～14歳													
	15～19歳													
	20～24歳													
	25～29歳													
	30～34歳	10												
	35～39歳	64										21	35	15
	40～44歳	147	46	14	17						17	86	95	53
	45～49歳	129	49	19	13						21	64	87	48
	50～54歳	103	47	13	14						20	50	71	36
	55～59歳	53	22	11							13	33	39	12
	60～64歳	34	25								10	27	28	
	65～69歳	21	15									19	18	
	70～74歳													
	75～79歳													
	80～84歳													
85～89歳														
90～94歳														
95～99歳														
100歳以上														
女性	0～4歳													
	5～9歳													
	10～14歳													
	15～19歳													
	20～24歳													
	25～29歳													
	30～34歳													
	35～39歳													
	40～44歳													
	45～49歳													
	50～54歳													
	55～59歳													
	60～64歳													
	65～69歳													
	70～74歳													
	75～79歳													
	80～84歳													
85～89歳														
90～94歳														
95～99歳														
100歳以上														

集計期間：2013年度～2017年度 病名には疑い病名を含む

	人数	降圧薬処方	糖尿病薬処方	DVT病名(I802)	PE病名(I269)	入院中のDVT病名	入院中のPE病名	人工関節置換術施行	骨折の手術施行	骨粗鬆症薬処方	MRI撮影	C T撮影	C型肝炎薬処方	
男性	0～4歳	612	71	65	13					396	269	313		
	5～9歳	544	28		19				12	49	138	241		
	10～14歳	493	13		17				21	13	171	179		
	15～19歳	565	29	17	38				29	18	250	281		
	20～24歳	494	18		38		11		10	17	174	200		
	25～29歳	483	24	15	35				11	17	136	183		
	30～34歳	482	28	24	42					20	145	223	29	
	35～39歳	444	47	32	56		13		14	26	160	206	45	
	40～44歳	446	103	55	64		13		17	40	202	253	75	
	45～49歳	426	125	72	76		17		12	21	56	210	279	55
	50～54歳	394	148	76	73		18			27	70	234	300	59
	55～59歳	445	220	142	92	15	27		14	26	118	287	371	47
	60～64歳	597	307	232	104	29	35	15	11	34	172	428	523	40
	65～69歳	1,001	590	451	224	54	91	26	13	44	330	800	943	44
	70～74歳	1,085	738	555	277	63	109	34	12	73	412	934	1,050	29
	75～79歳	1,035	690	560	255	61	113	31		45	409	928	1,023	23
	80～84歳	931	681	458	231	71	108	34		50	413	848	922	13
85～89歳	483	370	198	113	31	53	16		39	248	423	475		
90～94歳	128	98	44	37	10	19			10	68	118	127		
95～99歳	11										10	11		
100歳以上														
女性	0～4歳	238	65	55	13					222	139	116		
	5～9歳	91	21							33	26	51		
	10～14歳	59	10							10	25	31		
	15～19歳	55	10							11	27	29		
	20～24歳	69	10	11	19					17	26	37		
	25～29歳	109	19	15	22					22	43	53		
	30～34歳	132	18	15	39		11			31	49	58		
	35～39歳	170	27	21	31					46	67	85		
	40～44歳	172	28	24	41		10			55	87	98		
	45～49歳	123	34	21	35		13			40	83	94		
	50～54歳	124	40	27	39		11			31	98	99		
	55～59歳	126	49	31	32		11			12	39	87	109	
	60～64歳	160	82	60	47	10	20			16	67	132	148	
	65～69歳	279	154	127	72	14	39			25	148	244	270	
	70～74歳	335	224	173	109	24	48	12		29	190	299	329	
	75～79歳	403	300	217	117	27	60	13		39	250	363	393	
	80～84歳	447	359	240	146	36	74	17	15	75	332	413	444	
85～89歳	296	232	139	73	18	41			37	223	267	291		
90～94歳	134	105	57	33		20			24	95	119	133		
95～99歳	21	15								13	17	21		
100歳以上														

糖尿病集計

集計期間：2013年度～2017年度 病名には疑い病名を含む

	人数	降圧薬処方	糖尿病薬処方	DVT病名(I802)	PE病名(I269)	入院中のDVT病名	入院中のPE病名	人工関節置換術施行	骨折の手術施行	骨粗鬆症薬処方	MRI撮影	C T撮影	C型肝炎薬処方	
男性	0～4歳	1,046	272	1,046	57		42			852	342	476		
	5～9歳	1,048	169	1,048	36		27		25	292	196	304		
	10～14歳	1,647	143	1,647	27		11		116	159	420	489		
	15～19歳	4,233	352	4,233	126	32	45	15	289	288	1,033	1,547		
	20～24歳	9,160	1,003	9,160	259	71	80	33	168	454	1,675	3,158		
	25～29歳	18,013	2,813	18,013	483	134	145	46	215	587	2,948	5,933		
	30～34歳	36,954	8,208	36,954	1,024	352	268	114	13	515	1,051	6,557	12,482	19
	35～39歳	71,666	21,068	71,666	2,155	723	498	202	22	1,103	2,285	14,521	26,039	111
	40～44歳	158,005	59,243	158,005	5,444	1,750	1,233	461	80	2,850	5,533	36,649	61,296	292
	45～49歳	270,503	120,884	270,503	10,588	3,333	2,315	805	167	5,719	10,909	71,185	112,306	806
	50～54歳	356,210	180,693	356,210	15,973	5,015	3,297	1,169	360	8,204	16,375	106,698	159,012	1,659
	55～59歳	457,353	254,826	457,353	22,856	6,696	5,080	1,678	725	11,971	23,896	154,212	218,181	2,665
	60～64歳	625,925	368,064	625,925	34,645	9,651	8,166	2,528	1,498	17,709	39,602	232,946	320,941	3,513
	65～69歳	961,408	600,885	961,408	64,567	17,824	15,654	4,980	2,814	32,487	76,262	419,328	556,728	5,317
	70～74歳	888,158	585,216	888,158	77,153	21,812	19,189	6,181	3,971	38,387	93,636	475,373	601,312	5,212
	75～79歳	810,169	549,415	810,169	83,731	23,515	22,136	7,063	5,176	42,777	112,421	488,928	600,674	4,242
80～84歳	648,397	462,468	648,397	78,757	23,088	23,147	7,316	5,017	42,485	118,204	433,926	532,259	3,095	
85～89歳	369,200	264,538	369,200	46,331	14,366	15,558	4,990	2,486	26,095	78,330	251,038	318,114	946	
90～94歳	124,318	86,893	124,318	15,050	4,835	5,678	1,859	424	8,757	27,771	80,929	109,688	107	
95～99歳	22,323	14,463	22,323	2,371	766	1,057	346	26	1,583	4,698	13,397	19,692		
100歳以上	2,584	1,542	2,584	231	90	106	41		173	477	1,359	2,251		
女性	0～4歳	942	258	942	52	14	40			750	296	394		
	5～9歳	1,155	140	1,155	29		23		24	287	199	305		
	10～14歳	2,057	112	2,057	37		17		83	157	397	472		
	15～19歳	4,175	237	4,175	113	23	49		127	372	993	1,219		
	20～24歳	9,025	554	9,025	385	84	86	33	83	907	1,585	2,502		
	25～29歳	19,452	1,473	19,452	946	172	228	68	120	2,396	3,342	4,766		
	30～34歳	39,391	4,359	39,391	2,395	403	535	155	11	306	5,240	7,388	9,697	27
	35～39歳	56,600	9,663	56,600	3,990	648	944	237	27	544	6,725	13,389	16,211	39
	40～44歳	79,679	21,641	79,679	5,234	1,007	1,151	291	62	1,022	8,185	22,873	28,329	71
	45～49歳	107,768	41,654	107,768	6,951	1,575	1,449	466	218	1,893	9,909	36,302	44,648	145
	50～54歳	146,024	67,797	146,024	9,165	2,216	1,991	632	651	3,809	14,468	52,892	65,185	319
	55～59歳	214,355	107,574	214,355	13,168	3,090	3,122	905	1,725	8,530	24,126	78,203	99,762	691
	60～64歳	324,846	171,800	324,846	20,341	4,688	5,310	1,415	3,778	16,579	46,166	121,348	156,891	1,198
	65～69歳	558,063	319,106	558,063	40,672	9,528	10,975	2,898	8,414	35,870	113,446	237,468	297,854	2,562
	70～74歳	596,391	374,215	596,391	53,998	12,676	15,618	4,000	12,649	51,313	175,189	301,674	363,096	3,471
	75～79歳	616,593	414,578	616,593	67,753	16,500	21,275	5,569	16,688	66,723	245,753	348,819	414,612	3,860
80～84歳	574,938	420,165	574,938	75,333	19,897	27,588	7,345	17,102	79,302	282,735	363,063	439,369	2,954	
85～89歳	440,969	329,947	440,969	58,733	16,540	24,841	6,789	7,983	65,943	227,952	277,363	357,671	804	
90～94歳	242,881	177,067	242,881	29,256	8,619	14,209	3,967	1,415	36,805	117,108	141,975	202,758	97	
95～99歳	76,347	51,646	76,347	8,151	2,392	4,490	1,190	109	11,991	31,588	40,445	64,223		
100歳以上	12,488	7,406	12,488	1,162	294	698	150		1,751	4,025	5,640	10,169		

がん病名集計_HIV感染症

serial	病名は疑い病名を含む	がん病名	がん傷病名ID0数
1	0	患者数	27,979
264	2028005	悪性リンパ腫	3,810
55	1539004	大腸癌	3,525
32	1519006	胃癌	2,910
80	1629006	肺癌	2,530
154	1859003	前立腺癌	1,772
61	1550004	肝癌	1,757
70	1579002	脾癌	1,406
1297	8847374	成人T細胞白血病リンパ腫	1,139
274	2030003	多発性骨髄腫	1,092
268	2028017	非ホジキンリンパ腫	1,080
62	1550005	肝細胞癌	881
160	1889005	膀胱癌	713
56	1541005	直腸癌	482
136	1809004	子宮頸癌	465
117	1739001	カポジ肉腫	434
25	1509003	食道癌	407
526	8838679	脳悪性リンパ腫	351
59	1543002	肛門癌	233
311	8830213	悪性腫瘍	219
39	1519022	早期胃癌	202
125	1749008	乳癌	196
138	1820002	子宮体癌	193
584	8841113	リンパ腫	192
40	1520002	十二指腸癌	190
223	1970006	転移性肺腫瘍	178
478	8837166	胆のう癌	176
209	1939005	甲状腺癌	176
79	1629003	原発性肺癌	173
1328	8847422	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	173
53	1536002	上行結腸癌	170
222	1970005	転移性肺癌	168
229	1977006	転移性肝腫瘍	157
240	1983019	転移性脳腫瘍	156
142	1830005	卵巣癌	155
161	1890009	腎癌	151

がん病名集計_糖尿病上位35

serial	病名は疑い病名を含む	がん病名	がん傷病名ID0数
1		患者数	9,962,459
55	1539004	大腸癌	2,511,639
32	1519006	胃癌	2,057,075
70	1579002	膵癌	1,864,899
154	1859003	前立腺癌	1,637,675
80	1629006	肺癌	1,610,578
61	1550004	肝癌	882,783
160	1889005	膀胱癌	607,167
62	1550005	肝細胞癌	320,048
222	1970005	転移性肺癌	309,972
228	1977005	転移性肝癌	284,501
223	1970006	転移性肺腫瘍	278,557
229	1977006	転移性肝腫瘍	276,702
125	1749008	乳癌	265,229
264	2028005	悪性リンパ腫	221,815
56	1541005	直腸癌	198,810
247	1985023	転移性骨腫瘍	191,447
478	8837166	胆のう癌	189,613
161	1890009	腎癌	187,305
25	1509003	食道癌	186,469
138	1820002	子宮体癌	175,585
274	2030003	多発性骨髄腫	170,371
240	1983019	転移性脳腫瘍	162,898
209	1939005	甲状腺癌	160,470
49	1533003	S状結腸癌	150,890
142	1830005	卵巣癌	137,010
136	1809004	子宮頸癌	134,297
39	1519022	早期胃癌	126,885
221	1969001	リンパ節転移	124,232
65	1561004	胆管癌	119,929
53	1536002	上行結腸癌	105,414
268	2028017	非ホジキンリンパ腫	90,564
31	1514002	胃体部癌	77,918
350	8831889	癌	77,701
434	8835493	上葉肺癌	77,337
54	1539002	結腸癌	73,278

がん病名集計_血液凝固異常症

serial	病名は疑い病名を含む	がん病名	がん傷病名ID0数
1	0	患者数	14,645
55	1539004	大腸癌	3,505
32	1519006	胃癌	3,248
80	1629006	肺癌	2,448
154	1859003	前立腺癌	1,975
61	1550004	肝癌	1,915
70	1579002	隣癌	1,835
228	1977005	転移性肝癌	1,039
160	1889005	膀胱癌	1,013
222	1970005	転移性肺癌	1,013
229	1977006	転移性肝腫瘍	981
62	1550005	肝細胞癌	929
223	1970006	転移性肺腫瘍	821
240	1983019	転移性脳腫瘍	739
56	1541005	直腸癌	706
264	2028005	悪性リンパ腫	638
25	1509003	食道癌	510
247	1985023	転移性骨腫瘍	497
221	1969001	リンパ節転移	476
49	1533003	S状結腸癌	425
434	8835493	上葉肺癌	392
274	2030003	多発性骨髄腫	387
336	8831458	下葉肺癌	341
478	8837166	胆のう癌	325
31	1514002	胃体部癌	314
65	1561004	胆管癌	281
53	1536002	上行結腸癌	270
125	1749008	乳癌	265
142	1830005	卵巣癌	260
161	1890009	腎癌	254
268	2028017	非ホジキンリンパ腫	249
39	1519022	早期胃癌	249
79	1629003	原発性肺癌	239
227	1976001	癌性腹膜炎	228
136	1809004	子宮頸癌	227
1297	8847374	成人T細胞白血病リンパ腫	223

がん病名集計_血液凝固異常症かつHIV感染症上位35

serial	病名は疑い病名を含む	がん病名	がん傷病名ID0数
1	0	患者数	570
61	1550004	肝癌	325
62	1550005	肝細胞癌	251
32	1519006	胃癌	125
55	1539004	大腸癌	90
154	1859003	前立腺癌	62
264	2028005	悪性リンパ腫	58
70	1579002	脾癌	57
80	1629006	肺癌	44
160	1889005	膀胱癌	35
1297	8847374	成人T細胞白血病リンパ腫	18
274	2030003	多発性骨髄腫	16
478	8837166	胆のう癌	10
268	2028017	非ホジキンリンパ腫	10
161	1890009	腎癌	
222	1970005	転移性肺癌	
39	1519022	早期胃癌	
25	1509003	食道癌	
209	1939005	甲状腺癌	
65	1561004	胆管癌	
228	1977005	転移性肝癌	
40	1520002	十二指腸癌	
66	1561005	胆管細胞癌	
223	1970006	転移性肺腫瘍	
229	1977006	転移性肝腫瘍	
56	1541005	直腸癌	
247	1985023	転移性骨腫瘍	
79	1629003	原発性肺癌	
164	1891003	腎盂癌	
63	1550012	原発性肝癌	
221	1969001	リンパ節転移	
64	1551002	肝内胆管癌	
240	1983019	転移性脳腫瘍	
434	8835493	上葉肺癌	
166	1892003	尿管癌	
302	2733003	原発性マクログロブリン血症	

エイズ動向委員会 NDB 資料解説

奈良県立医科大学
講師 野田 龍也

今回の提出資料は、「HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究班」（HIV 血友病班；代表 野田）の分析結果である。

NDB は、国民皆保険制度を有する我が国における保険診療の全数調査であり、1億2千7百万人の医療受療状況のデータがほぼすべて格納されていることになっている（実際は生活保護の医療扶助など、1割弱の医療は格納されていない）。しかしながら、NDB は病院だけでなく、診療所のデータも取得可能であり、日本国民の9割以上の状況を網羅的に把握できることが強みである。

当研究班では、この NDB を用いて、HIV 感染者及び血液凝固異常症（血友病）患者の医療状況を調査・分析している。今回提出する資料の内容は以下のとおりである：

- ・ HIV 感染者（抗 HIV 薬被処方者）の現在の継続通院者数（全国総数、性年齢階級別、都道府県別；表 1, 表 2）
- ・ 新規の HIV 感染者（抗 HIV 薬被処方者）数（表 3）
- ・ 継続通院及び新規の HIV 感染者（抗 HIV 薬被処方者）（都道府県別・ブロック別；表 4）
- ・ HIV 感染者の現在までの累積患者数（表 5-1、表 5-2）
- ・ HIV 感染者の死亡数（表 6-1）
- ・ HIV 感染者の年齢調整死亡率（糖尿病患者集団との比較；表 6-2）
- ・ NDB 集計に用いた抗 HIV 薬のリスト（マスタ）

NDB の詳細については、別添のスライド資料もご参照ください。

このように、NDB は新しい手法での全国集計が可能であるが、未把握の項目もあり、従来の委員会報告を置き換えるものではない。NDB と感染症法届出（従来の集計）が並立することで、報告値の正確さが増し、より確実に国際的な責任が果たせるのではないかと考えている。特に、国際的な HIV 医療指標である 90-90-90 の一部を半自動的に測定できることが NDB の強みである。また、HIV 感染者の死亡も比較的高い精度で追跡可能できることが強みである。

(白阪委員長からの事前質問とその回答)

● 表 5-1 HIV 感染者+エイズ患者 (累積)

抗 HIV 薬処方 of 累積患者数 25570 人・・・①

このうち、現在受診中の患者 20646 人・・・②

①-②=4924 人は、おおむね、この期間の非治療者を示すと考えてよいか？

この 4924 人は、2017 年 1 月～2018 年 3 月に「抗 HIV 薬の処方を受けなかった」か「処方を受けたが、この期間に臨床治験対象者か生活保護受給者であり、観察外となった」というどちらかである。後者は、「もともとは医療保険だったが生保等へ変わった患者さん」のため、数値に影響を及ぼすほど多数でないとする。(くわしい定義は以下)

====

①2013 年 4 月 1 日～2016 年 12 月 30 日にレセプトが発生し抗 HIV 薬が処方された患者

②上記①のうち「2017 年 1 月 1 日～2018 年 3 月 31 日」にも抗 HIV 薬処方が確認された患者

※観察期間に医療保険を使用しなかった患者(全期間で生活保護受給中等)は対象外となっている。

※患者であるにも関わらず、「医療保険」で「2013 年 4 月～2016 年 12 月に抗 HIV 薬の処方を受けなかった人」は拾っていない。

====

● この 4924 人の内訳、つまり既治療者(つまり中断者)か、未治療者か、NDB から脱落者(帰国、死亡、NDB 対象外施設に収監)かは分かるか？

→限界はあるものの、一定程度は分かる。

・未治療者・・・HIV 感染/AIDS の診断を受けたが、治療を行っていない人

→NDB ではダイレクトには把握できない。ただ、感染症法の届出(入口)と NDB 処方数(出口)を組み合わせることで一定程度、推定可能と思われる。

・既治療者(中断者)

→HIV-RNA 定量検査を定期的に受けている経過観察患者は確実に追跡・把握できる。定量検査を受けず(HIV の診療を中断し)、まったく別の疾病で受診をした患者さんも追跡・把握できる。

一方、HIV の治療を中断した後、何らの医療機関受診もおこなっていない方は、NDB では把握できない(おそらく他の調査でも把握が困難)。

・ NDB からの脱落者

→死亡者は、奈良県立医科大学が開発した「NDB 死亡者特定ロジック」では、全死亡の 9 割ほど把握できます。残り 1 割は、交通事故死や自殺など、医療管理下（レセプト発生条件）以外でお亡くなりになった場合で、NDB では死亡特定できない。

また、帰国や刑事施設等への収容は残念ながら NDB では把握できない。

つまり、医療保険を使用する環境にある患者さんの治療中断や死亡はある程度把握できると考えられるが、「日本の医療保険を使用しない環境」の方や「医療保険環境にいるが何年も未受診が継続している」方、「医療管理下以外でお亡くなりになった」方は、NDB では脱落理由を把握することができない。

- もし、HIV ウイルス量という検査項目も追加できると、HIV 陽性と診断され医療機関につながっている全患者数が把握できる。その時は、ウイルス量測定は一回程度なら HIV 感染症かどうかの診断でも用いる（結果は感度未満）ので、複数回（3 回以上？）測定者を拾うことが必要であろう。もし、検査値も拾えるようであれば、90-90-90 の最後の 90（治療中でウイルス量が 200 未満）も示せるのではないか。

残念ながら、検査結果の値は NDB では拾うことができない。

ただし、「HIV のウイルス量検査を複数回または定期的に行っていること」は把握・追跡できる。つまり、きちんと標準的なモニタリングを受けている患者さんの数は NDB で把握できる。

(表1)抗HIV薬処方患者数(NDB集計・継続通院患者数)(年齢階級別)

		NDBを用いた抗HIV薬処方患者数(継続通院患者数)の集計(年齢階級別)								
		追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数
		男			女			合計		
合計	19,156	51,481,319	37.2	1,490	59,130,630	2.5	20,646	110,611,949	18.7	
年齢	0歳	<10	3150程度	<10	<10	3200程度	<10	<10	6350程度	<10
	1歳	<10	320150程度	<10	<10	295300程度	<10	<10	615450程度	<10
	2歳	<10	519100程度	<10	<10	492800程度	<10	<10	1011900程度	<10
	3歳	<10	526600程度	<10	<10	496550程度	<10	<10	1023100程度	<10
	4歳	<10	532800程度	<10	<10	504700程度	<10	<10	1037550程度	<10
	5歳	<10	537200程度	<10	<10	509100程度	<10	<10	1046300程度	<10
	6歳	<10	546800程度	<10	<10	519200程度	<10	<10	1066000程度	<10
	7歳	<10	549550程度	<10	<10	517500程度	<10	<10	1067050程度	<10
	8歳	<10	545350程度	<10	<10	514800程度	<10	<10	1060150程度	<10
	9歳	<10	548200程度	<10	<10	519400程度	<10	<10	1067600程度	<10
	10-14歳	<10	2712600程度	<10	<10	2543050程度	<10	<10	5255700程度	<10
	15-19歳	<10	2642700程度	<10	<10	2590500程度	<10	<10	5233200程度	<10
	20-24歳	138	2,327,401	5.9	14	2,639,711	0.5	152	4,967,112	3.1
	25-29歳	873	2,376,824	36.7	26	2,777,613	0.9	899	5,154,437	17.4
	30-34歳	1,727	2,731,075	63.2	94	3,196,086	2.9	1,821	5,927,161	30.7
	35-39歳	2,588	3,044,361	84.9	178	3,512,731	5.1	2,766	6,557,092	42.2
	40-44歳	3,568	3,590,202	99.3	284	4,043,967	7.0	3,852	7,634,169	50.4
	45-49歳	3,537	3,647,232	96.9	276	4,087,883	6.8	3,813	7,735,115	49.3
	50-54歳	2,407	3,210,901	74.9	227	3,572,702	6.4	2,634	6,783,603	38.8
	55-59歳	1,471	3,075,219	47.8	127	3,363,783	3.8	1,598	6,439,002	24.8
60-64歳	1,035	3,139,522	33.0	93	3,432,171	2.7	1,128	6,571,693	17.2	
65-69歳	978	4,018,636	24.3	65	4,460,915	1.5	1,043	8,479,551	12.3	
70-74歳	475	3,396,070	14.0	56	3,919,924	1.4	531	7,315,994	7.3	
75-79歳	229	2,856,117	8.0	31	3,505,309	0.9	260	6,361,426	4.1	
80-84歳	89	2,171,656	4.1	12	3,028,753	0.4	101	5,200,409	1.9	
85-89歳	30程度	1,284,961	5程度	<10	2275150程度	<10	33	3,560,109	0.9	
90-94歳	<10	509030程度	<10	<10	1276080程度	<10	<10	1785110程度	<10	
95-99歳	<10	103760程度	<10	<10	443195程度	<10	<10	546960程度	<10	
100歳以上	<10	14040程度	<10	<10	88460程度	<10	<10	102500程度	<10	

*「2013年4月1日～2016年12月30日」と「2016年12月30日～2018年3月31日」の両方にレセプトが発生した患者のうち抗HIV薬が処方された患者

(表2) 抗HIV薬処方患者数(NDB集計・継続通院患者数)(都道府県別)

		NDBを用いた抗HIV薬処方患者数(継続通院患者数)の集計(都道府県別)								
		追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数
		男			女			合計		
		合計								
合計	19,156	51,481,319	37.2	1,490	59,130,630	2.5	20,646	110,611,949	18.7	
都 道 府 県	北海道	352	2,050,478	17.2	17	2,490,555	0.7	369	4,541,033	8.1
	青森県	65程度	503,579	13程度	<10	622210程度	<10	67	1,125,792	6.0
	岩手県	30程度	501,989	5程度	<10	592850程度	<10	37	1,094,844	3.4
	宮城県	175	965,420	18.1	18	1,095,786	1.6	193	2,061,206	9.4
	秋田県	40程度	403,311	19程度	<10	490450程度	<10	43	893,751	4.8
	山形県	30程度	464,049	5程度	<10	541550程度	<10	33	1,005,584	3.3
	福島県	55程度	799,184	5程度	<10	889930程度	<10	64	1,689,111	3.8
	茨城県	247	1,178,688	21.0	51	1,298,876	3.9	298	2,477,564	12.0
	栃木県	221	829,204	26.6	42	917,705	4.6	263	1,746,909	15.1
	群馬県	168	826,693	20.3	28	929,357	3.0	196	1,756,050	11.2
	埼玉県	383	2,777,161	13.8	40	3,115,700	1.3	423	5,892,861	7.2
	千葉県	489	2,424,572	20.2	106	2,734,729	3.9	595	5,159,301	11.5
	東京都	7,790	5,922,181	131.4	481	6,556,595	7.3	8,271	12,478,776	66.2
	神奈川県	1,038	3,614,405	28.7	130	4,077,262	3.2	1,168	7,691,667	15.2
	新潟県	84	937,063	9.0	16	1,082,334	1.5	100	2,019,397	5.0
	富山県	50程度	439,589	10程度	<10	506590程度	<10	55	946,177	5.8
	石川県	107	470,559	22.7	11	543,679	2.0	118	1,014,238	11.6
	福井県	40程度	325,354	10程度	<10	371340程度	<10	43	696,695	6.2
	山梨県	42	336,392	12.5	15	382,791	3.9	57	719,183	7.9
	長野県	165	866,576	19.0	66	988,869	6.7	231	1,855,445	12.4
	岐阜県	110程度	839,106	15程度	<10	961400程度	<10	119	1,800,513	6.6
	静岡県	287	1,531,724	18.7	43	1,707,492	2.5	330	3,239,216	10.2
	愛知県	1,140	3,149,958	36.2	97	3,414,070	2.8	1,237	6,564,028	18.8
	三重県	107	754,382	14.2	25	849,648	2.9	132	1,604,030	8.2
	滋賀県	100程度	574,261	15程度	<10	642200程度	<10	109	1,216,467	9.0
	京都府	292	997,414	29.3	13	1,182,962	1.1	305	2,180,376	14.0
	大阪府	2,540	3,491,518	72.7	86	4,111,801	2.1	2,626	7,603,319	34.5
	兵庫県	508	2,172,674	23.4	24	2,603,122	0.9	532	4,775,796	11.1
	奈良県	123	530,686	23.2	14	643,181	2.2	137	1,173,867	11.7
	和歌山県	70程度	397,843	15程度	<10	475490程度	<10	73	873,335	8.4
	鳥取県	25程度	240,548	10程度	<10	284100程度	<10	26	524,645	5.0
	島根県	15程度	283,999	5程度	<10	330650程度	<10	17	614,649	2.8
	岡山県	171	780,931	21.9	11	903,172	1.2	182	1,684,103	10.8
	広島県	250程度	1,162,960	20程度	<10	1340150程度	<10	255	2,503,110	10.2
	山口県	50程度	564,811	10程度	<10	668100程度	<10	54	1,232,944	4.4
	徳島県	40程度	307,793	10程度	<10	362650程度	<10	43	670,432	6.4
	香川県	80程度	409,933	20程度	<10	471450程度	<10	84	881,412	9.5
	愛媛県	100程度	559,864	20程度	<10	667900程度	<10	106	1,227,782	8.6
	高知県	55程度	283,353	20程度	<10	346250程度	<10	61	629,597	9.7
	福岡県	702	2,019,733	34.7	36	2,423,261	1.5	738	4,442,994	16.6
	佐賀県	25程度	340,179	5程度	<10	405250程度	<10	24	745,455	3.2
	長崎県	75程度	555,077	15程度	<10	673250程度	<10	85	1,228,352	6.9
	熊本県	150程度	727,329	20程度	<10	870400程度	<10	163	1,597,727	10.2
	大分県	60程度	479,439	10程度	<10	565700程度	<10	61	1,045,140	5.8
	宮崎県	80程度	460,263	20程度	<10	551450程度	<10	86	1,011,739	8.5
	鹿児島県	120程度	665,827	15程度	<10	799950程度	<10	123	1,465,758	8.4
	沖縄県	297	563,267	52.7	17	646,312	2.6	314	1,209,579	26.0

*「2013年4月1日～2016年12月30日」と「2016年12月30日～2018年3月31日」の両方にレセプトが発生した患者のうち抗HIV薬が処方された患者

(表3)HIV感染者+エイズ患者(新規)(年齢階級別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数(新規) 〔平成29年1月1日～平成29年3月31日〕 H I V感染者及びエイズ患者の性別、年齢別集計
感染症法	感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 〔平成28年12月26日～平成29年3月26日〕 H I V感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

	診断区分	男		女		計		
		NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	
	合計	564	313	36	12	600	325	
H I V感染者+エイズ患者	感染経路	異性間の性的接触		45		8		53
		同性間の性的接触		237		0		237
		静注薬物使用	不明	1	不明	0	不明	1
		母子感染		0		0		0
		その他*2		3		1		4
		不明		27		3		30
年齢	10歳未満	<10	0	<10	0	<10	0	
	10～19歳	<10	0	<10	0	<10	0	
	20～29歳	95程度	88	<10	1	100	89	
	30～39歳	190程度	91	<10	7	198	98	
	40～49歳	162	86	11	0	173	86	
	50～59歳	87	33	10	3	97	36	
	60～69歳	20程度	10	<10	1	23	11	
	70歳以上	<10	5	<10	0	<10	5	
	不明		0		0		0	
感染地域	国内		258		7		265	
	海外	不明	17	不明	1	不明	18	
	不明		38		4		42	

NDB集計:2017年1月～3月の新規(抗HIV薬処方開始)患者

*2013年4月1日から2016年12月31日までに抗HIV薬を処方されていないかつ
2017年1月1日から2017年3月31日までに新たに抗HIV薬を処方された患者

*1 両性間性的接触を含む。

*2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が
複数ある例を含む。

(表4) HIV感染者+エイズ患者 新規・累計(都道府県別・ブロック別)

NDB	HIV感染者・エイズ患者集計 新規・累積(都道府県別集計) (平成29年1月1日～平成29年3月31日)
	HIV感染者+エイズ患者
感染症法	感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 HIV感染者及びエイズ患者の都道府県別累積報告状況 (平成28年12月26日～平成29年3月26日)
	HIV感染者+エイズ患者

ブロック名	都道府県名	今回新規(2017年1月～3月)				前回新規(2016年10月～12月)				累計(感染症法は1985年～、NDBは2013年4月～2017年3月)								
		報告地		〔居住地〕		報告地		〔居住地〕		報告地		〔居住地〕		報告地		〔居住地〕		
		NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	
北海道	1 北海道	19	11	不明	[11]	12	10	不明	[9]	493	477	388	不明	[274]	1.9%	1.7%	不明	[2.0%]
東北	2 青森県	<10	1		[1]	<10	2		[1]	87	84	69		[34]	0.3%	0.3%		[0.3%]
	3 岩手県	<10	1		[1]	<10	0		[0]	49	63	40		[28]	0.2%	0.2%		[0.2%]
	4 宮城県	<10	5		[5]	<10	5		[4]	258	228	198		[119]	1.0%	0.8%		[0.9%]
	5 秋田県	<10	0		[0]	<10	0		[0]	44	47	43		[19]	0.2%	0.2%		[0.1%]
	6 山形県	<10	0		[0]	<10	1		[0]	40	51	34		[19]	0.2%	0.2%		[0.1%]
	7 福島県	<10	1		[1]	<10	5		[4]	81	126	69		[64]	0.3%	0.5%		[0.5%]
	ブロック計	16	8		[8]	<10	13		[9]	559	599	453		[283]	2.1%	2.2%		[2.1%]
関東甲信越	8 茨城県	<10	3		[4]	<10	2		[2]	384	866	306		[228]	1.5%	3.1%		[1.7%]
	9 栃木県	<10	1		[1]	<10	0		[0]	330	446	271		[135]	1.3%	1.6%		[1.0%]
	10 群馬県	<10	3		[2]	<10	4		[3]	261	341	204		[126]	1.0%	1.2%		[0.9%]
	11 埼玉県	<10	7		[9]	10	4		[5]	539	890	432		[633]	2.1%	3.2%		[4.7%]
	12 千葉県	21	11		[15]	22	17		[16]	788	1,351	616		[627]	3.0%	4.9%		[4.6%]
	13 東京都	217	112		[87]	256	99		[79]	10,381	9,248	8,487		[3,723]	39.7%	33.4%		[27.5%]
	14 神奈川県	38	21		[16]	39	25		[23]	1,499	1,904	1,206		[909]	5.7%	6.2%		[6.7%]
	15 新潟県	<10	3		[2]	<10	0		[0]	118	155	101		[58]	0.5%	0.6%		[0.4%]
	16 山梨県	<10	2		[2]	<10	0		[1]	74	166	60		[51]	0.3%	0.6%		[0.4%]
	17 長野県	<10	4		[3]	<10	1		[2]	279	509	236		[120]	1.1%	1.8%		[0.9%]
ブロック計	318	167		[141]	348	152		[131]	14,653	15,876	11,919		[6,610]	56.0%	57.4%		[48.9%]	
北陸	18 富山県	<10	2		[3]	<10	2		[2]	65	73	56		[35]	0.2%	0.3%		[0.3%]
	19 石川県	<10	3		[2]	<10	0		[0]	143	121	119		[72]	0.5%	0.4%		[0.5%]
	20 福井県	<10	0		[0]	<10	0		[0]	53	82	43		[44]	0.2%	0.3%		[0.3%]
ブロック計	<10	5		[5]	<10	2		[2]	261	276	218		[151]	1.0%	1.0%		[1.1%]	
東海	21 岐阜県	<10	1		[0]	<10	6		[5]	149	286	123		[203]	0.6%	1.0%		[1.5%]
	22 静岡県	<10	4		[4]	<10	3		[3]	427	635	338		[250]	1.6%	2.3%		[1.8%]
	23 愛知県	34	16		[16]	40	25		[25]	1,570	1,708	1,271		[1,058]	6.0%	6.2%		[7.8%]
	24 三重県	<10	2		[3]	<10	3		[2]	160	248	133		[128]	0.6%	0.9%		[0.9%]
ブロック計	47	23		[23]	57	37		[35]	2,306	2,877	1,865		[1,639]	8.8%	10.4%		[12.1%]	
近畿	25 滋賀県	<10	3		[2]	<10	5		[2]	142	147	113		[86]	0.5%	0.5%		[0.6%]
	26 京都府	10	4		[5]	<10	3		[2]	392	369	315		[206]	1.5%	1.3%		[1.5%]
	27 大阪府	85	48		[38]	93	63		[60]	3,438	3,250	2,710		[1,865]	13.1%	11.7%		[13.8%]
	28 兵庫県	18	5		[8]	12	12		[12]	678	640	550		[456]	2.6%	2.3%		[3.4%]
	29 奈良県	<10	1		[1]	<10	0		[0]	165	182	139		[108]	0.6%	0.7%		[0.8%]
	30 和歌山県	<10	0		[0]	<10	0		[0]	84	116	73		[62]	0.3%	0.4%		[0.5%]
ブロック計	119	61		[54]	121	83		[76]	4,899	4,704	3,900		[2,783]	18.7%	17.0%		[20.6%]	
中国四国	31 鳥取県	<10	1		[1]	<10	0		[0]	38	33	28		[22]	0.1%	0.1%		[0.2%]
	32 島根県	<10	1		[0]	<10	1		[1]	24	28	19		[13]	0.1%	0.1%		[0.1%]
	33 岡山県	<10	5		[5]	<10	3		[3]	212	222	186		[139]	0.8%	0.8%		[1.0%]
	34 広島県	<10	2		[2]	<10	4		[3]	297	339	259		[215]	1.1%	1.2%		[1.6%]
	35 山口県	<10	1		[1]	<10	1		[1]	73	87	55		[57]	0.3%	0.3%		[0.4%]
	36 徳島県	<10	2		[1]	<10	3		[3]	53	65	46		[48]	0.2%	0.2%		[0.4%]
	37 香川県	<10	1		[1]	<10	0		[0]	103	108	86		[77]	0.4%	0.4%		[0.6%]
	38 愛媛県	<10	0		[0]	<10	4		[3]	130	137	108		[68]	0.5%	0.5%		[0.5%]
	39 高知県	<10	1		[1]	<10	2		[3]	69	69	63		[48]	0.3%	0.2%		[0.4%]
ブロック計	22	14		[12]	26	18		[17]	999	1,088	850		[687]	3.8%	3.9%		[5.1%]	
九州沖縄	40 福岡県	34	19		[21]	35	23		[18]	911	805	772		[566]	3.5%	2.9%		[4.2%]
	41 佐賀県	<10	0		[0]	<10	5		[5]	33	53	26		[53]	0.1%	0.2%		[0.4%]
	42 長崎県	<10	0		[0]	<10	1		[1]	105	83	86		[45]	0.4%	0.3%		[0.3%]
	43 熊本県	<10	0		[0]	11	9		[9]	200	153	166		[96]	0.8%	0.6%		[0.7%]
	44 大分県	<10	3		[0]	<10	1		[1]	76	86	63		[57]	0.3%	0.3%		[0.4%]
	45 宮崎県	<10	2		[2]	<10	1		[1]	104	95	89		[72]	0.4%	0.3%		[0.5%]
	46 鹿児島県	<10	4		[5]	<10	4		[4]	155	154	125		[96]	0.6%	0.6%		[0.7%]
47 沖縄県	10	8		[5]	<10	4		[3]	416	343	324		[205]	1.6%	1.2%		[1.5%]	
ブロック計	57	36		[33]	74	48		[42]	2,000	1,772	1,651		[1,190]	7.6%	6.4%		[8.8%]	
合計	600	325		[287]	654	363		[321]	26,170	27,669	21,244		[13,521]	100%	100%		[100.0%]	

「今回」のNDB集計: 2017年1月～3月の新規患者(抗HIV薬処方開始)
 * 2013年4月1日から2016年12月31日までに抗HIV薬を処方されていない
 かつ2017年1月1日から2017年3月31日までに
 新たに抗HIV薬を処方された患者

※〔報告地〕: 昭和60年から集計
 ※〔居住地〕: 最近数年間の主な居住地(平成19年4月から記載)

後天性免疫不全症候群発生届出(抜粋)
 ①最近数年間の主な居住地
 1) 日本国内(都道府県)
 2) その他()
 3) 不明

「前回」のNDB集計: 2016年10月～12月の新規患者(抗HIV薬処方開始)
 * 2013年4月1日から2016年9月30日までに抗HIV薬を処方されていない
 かつ2016年10月1日から2016年12月31日までに
 新たに抗HIV薬を処方された患者

「累計」のNDB集計: 2013年4月～2017年3月の通院患者(抗HIV薬処方)
 * 2013年4月1日から2017年3月31日までに1回以上抗HIV薬を処方された患者数
 「NDB継」: 上記のうち、2017年1月～3月に抗HIV薬処方がある患者(継続受診中患者)

(表5-1) HIV感染者+エイズ患者 (累積)

診断区分		NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数情報 平成28年12月30日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の性別患者数							感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 平成28年12月25日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計												
		日本国籍			外国国籍			合計			日本国籍			外国国籍			合計				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
HIV感染者	合計	不明								14,840	939	15,779	1,629	1,443	3,072	16,469	2,382	18,851			
	異性間の性的接触									2,903	768	3,671	440	847	1,287	3,343	1,615	4,958			
	同性間の性的接触*1									10,391	4	10,395	667	1	668	11,058	5	11,063			
	静注薬物使用									41	2	43	27	3	30	68	5	73			
	母子感染									18	9	27	5	8	13	23	17	40			
	その他*2									292	39	331	61	27	88	353	66	419			
	不明									1,195	117	1,312	429	557	986	1,624	674	2,298			
エイズ患者	合計*3	不明								6,815	377	7,192	903	398	1,301	7,718	775	8,493			
	異性間の性的接触									2,158	251	2,409	302	219	521	2,460	470	2,930			
	同性間の性的接触*1									3,269	3	3,272	172	2	174	3,441	5	3,446			
	静注薬物使用									28	4	32	26	3	29	54	7	61			
	母子感染									9	3	12	1	5	6	10	8	18			
	その他*2									170	23	193	27	15	42	197	38	235			
不明									1,181	93	1,274	375	154	529	1,556	247	1,803				
HIV感染者+エイズ患者 合計		不明								23,693	1,877	25,570	21,655	1,316	22,971	2,532	1,841	4,373	24,187	3,157	27,344
凝固因子製剤による感染者*4		不明								1,421	18	1,439	—	—	—	1,421	18	1,439			

NDBの太枠は、2013年4月1日～2016年12月30日におけるHIV感染者+エイズ患者の累計
* 2013年4月1日～2016年12月30日にレセプトが発生し抗HIV薬が処方された患者

- * 1 両性間性的接触を含む。
- * 2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。
- * 3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。
- * 4 「血液凝固異常症全国調査」による
2015年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数	
感染症法施行後の任意報告数 (平成11年4月1日～平成28年12月31日)	373名
エイズ予防法*5に基づく法定報告数 (平成元年2月17日～平成11年3月31日)	596名
凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数*	706名

- * 5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。
- * 6 「血液凝固異常症全国調査」による2015年5月31日現在の報告数

(表5-2) HIV感染者+エイズ患者 (累積)(現在受診中患者)

		NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数情報 平成28年12月30日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の性別患者数									感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 平成28年12月25日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計											
診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計			日本国籍			外国国籍			合計					
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
HIV感染者	合計	不明									14,840	939	15,779	1,629	1,443	3,072	16,469	2,382	18,851			
	異性間の性的接触										2,903	768	3,671	440	847	1,287	3,343	1,615	4,958			
	同性間の性的接触*1										10,391	4	10,395	667	1	668	11,058	5	11,063			
	静注薬物使用										41	2	43	27	3	30	68	5	73			
	母子感染										18	9	27	5	8	13	23	17	40			
	その他*2										292	39	331	61	27	88	353	66	419			
	不明										1,195	117	1,312	429	557	986	1,624	674	2,298			
エイズ患者	合計*3	不明									6,815	377	7,192	903	398	1,301	7,718	775	8,493			
	異性間の性的接触										2,158	251	2,409	302	219	521	2,460	470	2,930			
	同性間の性的接触*1										3,269	3	3,272	172	2	174	3,441	5	3,446			
	静注薬物使用										28	4	32	26	3	29	54	7	61			
	母子感染										9	3	12	1	5	6	10	8	18			
	その他*2										170	23	193	27	15	42	197	38	235			
不明										1,181	93	1,274	375	154	529	1,556	247	1,803				
HIV感染者+エイズ患者 合計		不明									19,156	1,490	20,646	21,655	1,316	22,971	2,532	1,841	4,373	24,187	3,157	27,344
凝固因子製剤による感染者*4		不明									1,421	18	1,439	—	—	—	1,421	18	1,439			

表2-1(処方患者累計)のうち、
2017年1月～2018年3月にも 抗
HIV薬処方(受診)のある患者

NDBの太枠は、2013年4月1日～2016年12月30日におけるHIV感染者+エイズ患者(継続通院患者数)

*「2013年4月1日～2016年12月30日」と「2017年1月1日～2018年3月31日」の両方に
レセプトが発生した患者のうち抗HIV薬が処方された患者

- *1 両性間性的接触を含む。
- *2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。
- *3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。
- *4 「血液凝固異常症全国調査」による
2015年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数	
感染症法施行後の任意報告数 (平成11年4月1日～平成28年12月31日)	373名
エイズ予防法*5に基づく法定報告数 (平成元年2月17日～平成11年3月31日)	596名
凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数*	706名

- *5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。
- *6 「血液凝固異常症全国調査」による2015年5月31日現在の報告数

表6-1・HIV感染者の死亡

	抗HIV薬処方者 (通算)	2013年度に死亡	2014年度に死亡	2015年度に死亡	2016年度に死亡	2017年度に死亡	転帰死亡情報なし
抗HIV薬処方患者の死亡数	28549†	77	89	102	86	104	28,091
(参考:人口動態統計による死因:HIV)		45	45	56	66	38	

HIV感染者のn年生存率	2013年度 抗HIV薬処方者	2013年度に死亡	2014年度に死亡	2015年度に死亡	2016年度に死亡	2017年度に死亡	転帰死亡情報なし
2013年度抗HIV薬処方者の各年度死亡数	17273‡	77	70	65	52	77	16,932
2013年度抗HIV薬処方者の累積死亡数		77	147	212	264	341	
累積死亡率		0.45%	0.85%	1.23%	1.53%	1.97%	
n年生存率		99.55%	99.15%	98.77%	98.47%	98.03%	

†2013～2017年度に抗HIV薬を処方されたHIV感染者数(実人数)

‡2013年度に抗HIV薬を処方されたHIV感染者

※本集計の死亡数は、レセプトの転帰欄に「死亡」が記載された患者(IDO)数(HIV以外での死亡を含む全死亡)

※医療管理下でない死亡(交通事故による現場死亡や自殺等)や生活保護へ転換後の死亡は捕捉されないため、実際の死亡よりは若干の過小評価となる。

表6-2・HIV感染者の年齢調整死亡率・糖尿病患者集団との比較

日本の糖尿病患者(HIV感染者を除く)を基準集団としたときの抗HIV薬処方患者(糖尿病患者合併者を除く)のSMR
(対象者の年齢構成を調整した死亡率。糖尿病患者の死亡率:100)

男性	58
女性	43
(男女)	57

※2013～2017年度に「抗HIV薬を処方された患者」と「糖尿病治療中の患者」における死亡が対象

※期間内にレセプトの転帰欄に「死亡」が記載された人数(原疾患以外での死亡を含む)

※医療管理下でない死亡(交通事故による現場死亡や自殺等)や生活保護へ転換後の死亡は捕捉されないため、実際の死亡よりは若干の過小評価となる。

※糖尿病患者、HIV感染者のあるなしの4群に分けて死亡数と非死亡数を集計し、それをもとにSMRを算出した。

※女性、(男女)については対象者が少ないため参考値

抗HIV薬マスタ

(別表)抗HIV薬一覧(マスタ)

医薬品コード	HIV薬名称	略名	一般名	作用機序	1錠あたりの容量	配合剤
620005140	レトロビルカプセル100mg	AZT(ZDV)	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
610443081	ヴァイデックスECカプセル125 125mg	ddL	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	125	0
610443082	ヴァイデックスECカプセル200 200mg	ddL	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620000425	エピビル錠150 150mg	3TC_150mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	0
620000426	エピビル錠300 300mg	3TC_300mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
610412192	ゼリットカプセル15 15mg	d4T	ザニルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	15	0
610412193	ゼリットカプセル20 20mg	d4T	ザニルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	20	0
621144201	コンビル配合錠	COM	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621144201	コンビル配合錠	COM	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	1
620004998	ザリアジェン錠300mg	ABC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
620001903	ビルアード錠300mg	TDF	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
621657001	エブジコム配合錠	EZC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
621657001	エブジコム配合錠	EZC	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620002488	エムトリバカプセル200mg	FTC	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
610421341	ビラミューン錠200 200mg	NVP	ネビラピン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620006943	ストックリン錠600mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	600	0
621932401	ストックリン錠200mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620009086	インテレンス錠100mg	ETR	エトラビルン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
622149101	エジュラント錠25mg	RPV	リルピビルン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	0
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	リルピビルン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620004975	クリキシバンカプセル200mg	IDV	硫酸インジナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620003516	インビラーゼカプセル200mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620004347	インビラーゼ錠500mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	500	0
621143701	ビラセプト錠250mg	NFV	メシル酸ネルフィナビル	プロテアーゼ阻害薬	250	0
621143601	ノービア内用液8% 80mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	80	0
622054801	ノービア錠100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	100	0
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	ロピナビル	プロテアーゼ阻害薬	80mg/mL	1

抗HIV薬マスタ

医薬品コード	HIV薬名称	略名	一般名	作用機序	1錠あたりの容量	配合剤
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	20mg/mL	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	ロピナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	5	1
620000454	レイアタツツカプセル150mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	150	0
620000455	レイアタツツカプセル200mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620002465	レクシヴァ錠700 700mg	FPV	ホスアンプレナビルカルシウム水和物	プロテアーゼ阻害薬	700	0
620005884	ブリジスタ錠300mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	300	0
622276701	ブリジスタナীব錠800mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	0
622403501	ブリジスタ錠600mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	600	0
620007815	アイセントレス錠400mg	RAL	ラルテグラビルカリウム	インテグラーゼ阻害薬	400	0
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	コピシスタット	CYP3A阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
622336201	デビケイ錠50mg	DTG	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害薬	50	0
622408801	トリーメク配合錠	TRI	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害薬	50	1
622408801	トリーメク配合錠	TRI	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
622408801	トリーメク配合錠	TRI	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620009087	シーエルセントリ錠150mg	MVC	マラビロク	CCR5阻害薬	150	0
621930301	ブリジスタナীব錠400mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	400	0
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	1
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	コピシスタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	コピシスタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	フマル酸テノホビルアラフェラミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
610409330	ハイビッド錠0.375	ddC	ザルシタビン	2008年3月販売中止	0.375	0

HIV 感染症に関する NDB 集計 (2020 年 3 月度)

奈良県立医科大学 公衆衛生学講座

准教授 野田 龍也

助教 西岡 祐一

- この集計について

HIV 感染症の患者数等については、拠点病院調査や感染症法の届出などに基づく集計があり、長年活用されている。今回の提出資料は、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）と呼ばれる全国データベースを用いて、従来調査とは別の角度から同様の集計を行ったものである。

NDB は、国民皆保険制度を有する我が国における保険診療の全数調査であり、1 億 2 千 7 百万人の医療受療状況のデータが悉皆的に格納されている（実際は生活保護の医療扶助など、1 割弱の医療は格納されていない）。しかしながら、NDB は病院だけでなく、診療所のデータも取得可能であり、また、名寄せにより、同一患者が複数医療機関を受診した事例もほぼ正確に把握できるため、既存のさまざまな患者調査にはない全国悉皆性と医療機関をまたいだ患者追跡性を有する。

この提出資料では、HIV 感染症に関するさまざま調査のうち、主に 4 つの疫学指標（有病（= 患者数）、現在の受診者、新規受診者、死亡）について NDB を用いた集計を示し、要点を付した。従来調査の集計値も併記した。なお、第 153 回エイズ動向委員会（2019 年 8 月）へ提出した資料の一部を増補改訂して再掲している。

なお、NDB には、患者数 10 人未満の数値（例：9 人、0 人）や、逆算により 10 人未満を算出できる数値（48 人 - 40 人 = 8 人）を公表してはならないという規制がある（下線部は公表不可）。そのため、本資料においては、表中にて「・・・」「40 名程度」等のマスキングを行うなどの処理を行っている。

その他の留意点は、表の要点及び注釈に示した。

本資料は、厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究班」（2017～2019 年度、代表：奈良県立医科大学・野田 龍也）の分析結果の一部として作成された。

提出表一覧

- 表1 抗 HIV 薬処方患者数（NDB 集計・現在通院患者数）（年齢階級別）*
- 表2 抗 HIV 薬処方患者数（NDB 集計・現在通院患者数）（都道府県別）*
- 表3 新規に診断された者の数（HIV 感染者＋エイズ患者）（2017 年）（年齢階級別）*
- 表4 新規に診断された者の数（HIV 感染者＋エイズ患者）（2017 年）（都道府県別、ウォッシュアウト期間別）
- 表5 HIV 感染者＋エイズ患者（累積）*
- 表6 HIV 感染者の死亡（NDB 集計）*
- 表7 HIV 感染者における生活習慣病(糖尿病)の合併状況（年齢階級別患者数と死亡者数）
- 表8 HIV 感染者の年齢調整死亡率・糖尿病患者集団との比較*
- 表9 HIV 感染者＋エイズ患者（新規）（年齢階級別）
- 表10 HIV 感染者＋エイズ患者 新規・累計（都道府県別・ブロック別）*
- 表11 抗 HIV 薬一覧（マスタ）

* 第 153 回エイズ動向委員会（2019 年 8 月）へ提出した資料を増補改訂したもの

要点：表 1

● 表 1 抗 HIV 薬処方患者数（NDB 集計・現在通院患者数）（年齢階級別）

HIV/AIDS 患者数については、調査開始時からの累積患者数は集計されているが、受診中断や死亡による脱落が織り込まれない点が課題であった。本表は、全国悉皆の受診情報である NDB の特性を活かし、「現時点で実際に受診している患者数」（現在通院患者数）を算出したものである。なお、同一患者が複数医療機関に受診した場合の名寄せは行っている。

NDB による現在通院患者数の把握方法としては、下記の A,B の両方の期間に抗 HIV 薬が処方されている患者とした：

- A) 平成 25 年（2013 年）4 月 1 日～平成 28 年（2016 年）12 月 30 日の 3 年 9 ヶ月間
 - B) 平成 28 年（2016 年）12 月 31 日～平成 30 年（2018 年）3 月 31 日の 1 年 3 ヶ月間
- ※A,B の区切りを 12 月 30 日としたのは既存統計に合わせるためである。

過去の一定期間（期間 A）に抗 HIV 薬を処方されつつ、最近（期間 B）にも抗 HIV 薬の処方がある場合は、「もともと抗 HIV 薬を処方されつつ、最近も受診中である」と推測され、最近を受診していない患者や最近になって新規受診した患者を除外できる。

表における「追跡中の抗 HIV 薬処方患者」が現在通院患者数であり、2017 年 1 月ごろ～2018 年 3 月までの 1 年 3 ヶ月間の時点で、通院して処方を受けている HIV/AIDS 患者は、全国で 20646 人ほど（男性 19156 人、女性 1490 人）であることが明らかとなった。また、年齢階級別では、全体、性別ともに、40～44 歳が最多であり、その前後では逡減している。

最近受診の定義（期間 B）は変更できるが、受診間隔の観点から、1 年数ヶ月間ほどに設定することが望ましいと考えられる。

(表1)抗HIV薬処方患者数

(NDB集計・現在通院患者数)(年齢階級別)

	NDBを用いた抗HIV薬処方患者数(継続通院患者数)の集計(年齢階級別)								
	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数
	男			女			合計		
合計	19,156	51,481,319	37.2	1,490	59,130,630	2.5	20,646	110,611,949	18.7
0歳	<10	3150程度	<10	<10	3200程度	<10	<10	6350程度	<10
1歳	<10	320150程度	<10	<10	295300程度	<10	<10	615450程度	<10
2歳	<10	519100程度	<10	<10	492800程度	<10	<10	1011900程度	<10
3歳	<10	526600程度	<10	<10	496550程度	<10	<10	1023100程度	<10
4歳	<10	532800程度	<10	<10	504700程度	<10	<10	1037550程度	<10
5歳	<10	537200程度	<10	<10	509100程度	<10	<10	1046300程度	<10
6歳	<10	546800程度	<10	<10	519200程度	<10	<10	1066000程度	<10
7歳	<10	549550程度	<10	<10	517500程度	<10	<10	1067050程度	<10
8歳	<10	545350程度	<10	<10	514800程度	<10	<10	1060150程度	<10
9歳	<10	548200程度	<10	<10	519400程度	<10	<10	1067600程度	<10
10-14歳	<10	2712600程度	<10	<10	2543050程度	<10	<10	5255700程度	<10
15-19歳	<10	2642700程度	<10	<10	2590500程度	<10	<10	5233200程度	<10
20-24歳	138	2,327,401	5.9	14	2,639,711	0.5	152	4,967,112	3.1
25-29歳	873	2,376,824	36.7	26	2,777,613	0.9	899	5,154,437	17.4
30-34歳	1,727	2,731,075	63.2	94	3,196,086	2.9	1,821	5,927,161	30.7
35-39歳	2,588	3,044,361	84.9	178	3,512,731	5.1	2,766	6,557,092	42.2
40-44歳	3,568	3,590,202	99.3	284	4,043,967	7.0	3,852	7,634,169	50.4
45-49歳	3,537	3,647,232	96.9	276	4,087,883	6.8	3,813	7,735,115	49.3
50-54歳	2,407	3,210,901	74.9	227	3,572,702	6.4	2,634	6,783,603	38.8
55-59歳	1,471	3,075,219	47.8	127	3,363,783	3.8	1,598	6,439,002	24.8
60-64歳	1,035	3,139,522	33.0	93	3,432,171	2.7	1,128	6,571,693	17.2
65-69歳	978	4,018,636	24.3	65	4,460,915	1.5	1,043	8,479,551	12.3
70-74歳	475	3,396,070	14.0	56	3,919,924	1.4	531	7,315,994	7.3
75-79歳	229	2,856,117	8.0	31	3,505,309	0.9	260	6,361,426	4.1
80-84歳	89	2,171,656	4.1	12	3,028,753	0.4	101	5,200,409	1.9
85-89歳	30程度	1,284,961	5程度	<10	2275150程度	<10	33	3,560,109	0.9
90-94歳	<10	509030程度	<10	<10	1276080程度	<10	<10	1785110程度	<10
95-99歳	<10	103760程度	<10	<10	443195程度	<10	<10	546960程度	<10
100歳以上	<10	14040程度	<10	<10	88460程度	<10	<10	102500程度	<10

- 集計値10未満については「<10」でマスキングしている。
- 「2013年4月1日～2016年12月30日」と「2016年12月30日～2018年3月31日」の両方に抗HIV薬が処方された
- 年齢は最後の医療保険使用時の年齢階級を使用。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタ(表11)を使用した。
- 10未満の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表 2

● 表 2 抗 HIV 薬処方患者数（NDB 集計・現在通院患者数）（都道府県別）

本表は、現在通院中の HIV/AIDS 患者を都道府県別に算出したものである。

NDB による現在通院患者数の把握方法は表 1 と同様である。

なお、NDB における地域情報は「受診医療機関の住所地」（受診地）であり、患者住所地ではない点に注意が必要である。

表における「追跡中の抗 HIV 薬処方患者」が現在通院患者数であり、東京都の 8271 人が最多、大阪府の 2626 人がそれに次ぐ。

今回の表では示していないが、これら通院中の患者が、どのような処方を受けているか、どのような併存疾患を有しているかも、NDB を用いて集計可能であり、HIV/AIDS 患者の置かれた医療面での状況を定量的に把握することができる。

(表2)抗HIV薬処方患者数
(NDB集計・現在通院患者数)(都道府県別)

	NDBを用いた抗HIV薬処方患者数(継続通院患者数)の集計(都道府県別)								
	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数
	男			女			合計		
全国	19,156	51,481,319	37.2	1,490	59,130,630	2.5	20,646	110,611,949	18.7
北海道	352	2,050,478	17.2	17	2,490,555	0.7	369	4,541,033	8.1
青森県	65程度	503,579	13程度	<10	622210程度	<10	67	1,125,792	6.0
岩手県	30程度	501,989	5程度	<10	592850程度	<10	37	1,094,844	3.4
宮城県	175	965,420	18.1	18	1,095,786	1.6	193	2,061,206	9.4
秋田県	40程度	403,311	19程度	<10	490450程度	<10	43	893,751	4.8
山形県	30程度	464,049	5程度	<10	541550程度	<10	33	1,005,584	3.3
福島県	55程度	799,184	5程度	<10	889930程度	<10	64	1,689,111	3.8
茨城県	247	1,178,688	21.0	51	1,298,876	3.9	298	2,477,564	12.0
栃木県	221	829,204	26.6	42	917,705	4.6	263	1,746,909	15.1
群馬県	168	826,693	20.3	28	929,357	3.0	196	1,756,050	11.2
埼玉県	383	2,777,161	13.8	40	3,115,700	1.3	423	5,892,861	7.2
千葉県	489	2,424,572	20.2	106	2,734,729	3.9	595	5,159,301	11.5
東京都	7,790	5,922,181	131.4	481	6,556,595	7.3	8,271	12,478,776	66.2
神奈川県	1,038	3,614,405	28.7	130	4,077,262	3.2	1,168	7,691,667	15.2
新潟県	84	937,063	9.0	16	1,082,334	1.5	100	2,019,397	5.0
富山県	50程度	439,589	10程度	<10	506590程度	<10	55	946,177	5.8
石川県	107	470,559	22.7	11	543,679	2.0	118	1,014,238	11.6
福井県	40程度	325,354	10程度	<10	371340程度	<10	43	696,695	6.2
山梨県	42	336,392	12.5	15	382,791	3.9	57	719,183	7.9
長野県	165	866,576	19.0	66	988,869	6.7	231	1,855,445	12.4
岐阜県	110程度	839,106	15程度	<10	961400程度	<10	119	1,800,513	6.6
静岡県	287	1,531,724	18.7	43	1,707,492	2.5	330	3,239,216	10.2
愛知県	1,140	3,149,958	36.2	97	3,414,070	2.8	1,237	6,564,028	18.8
三重県	107	754,382	14.2	25	849,648	2.9	132	1,604,030	8.2
滋賀県	100程度	574,261	15程度	<10	642200程度	<10	109	1,216,467	9.0
京都府	292	997,414	29.3	13	1,182,962	1.1	305	2,180,376	14.0
大阪府	2,540	3,491,518	72.7	86	4,111,801	2.1	2,626	7,603,319	34.5
兵庫県	508	2,172,674	23.4	24	2,603,122	0.9	532	4,775,796	11.1
奈良県	123	530,686	23.2	14	643,181	2.2	137	1,173,867	11.7
和歌山県	70程度	397,843	15程度	<10	475490程度	<10	73	873,335	8.4
鳥取県		240,548	10程度	<10	284100程度	<10	26	524,645	5.0
島根県	15程度	283,999	5程度	<10	330650程度	<10	17	614,649	2.8
岡山県	171	780,931	21.9	11	903,172	1.2	182	1,684,103	10.8
広島県	250程度	1,162,960	20程度	<10	1340150程度	<10	255	2,503,110	10.2
山口県	50程度	564,811	10程度	<10	668100程度	<10	54	1,232,944	4.4
徳島県	40程度	307,793	10程度	<10	362650程度	<10	43	670,432	6.4
香川県	80程度	409,933	20程度	<10	471450程度	<10	84	881,412	9.5
愛媛県	100程度	559,864	20程度	<10	667900程度	<10	106	1,227,782	8.6
高知県	55程度	283,353	20程度	<10	346250程度	<10	61	629,597	9.7
福岡県	702	2,019,733	34.7	36	2,423,261	1.5	738	4,442,994	16.6
佐賀県	25程度	340,179	5程度	<10	405250程度	<10	24	745,455	3.2
長崎県	75程度	555,077	15程度	<10	673250程度		85	1,228,352	6.9
熊本県	150程度	727,329	20程度	<10	870400程度	<10	163	1,597,727	10.2
大分県	60程度	479,439	10程度	<10	565700程度	<10	61	1,045,140	5.8
宮崎県	80程度	460,263	20程度	<10	551450程度	<10	86	1,011,739	8.5
鹿児島県	120程度	665,827	15程度	<10	799950程度	<10	123	1,465,758	8.4
沖縄県	297	563,267	52.7	17	646,312	2.6	314	1,209,579	26.0

- 都道府県は受診医療機関住所地(受診地)
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタを使用した(表11)。
- 「2013年4月1日～2016年12月30日」と「2016年12月30日～2018年3月31日」の両方にレセプトが発生した患者のうち、抗HIV薬が処方された患者。
- 集計値10未満については「<10」でマスキングしている。
- 10未満の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表3

● 表3 新規に診断された者の数（HIV感染者＋エイズ患者）（2017年）（年齢階級別）

平成29年（2017年）1月1日～12月31日の1年間に、HIV感染者またはAIDSと新規に診断された患者数を示した。NDBによる集計値と感染症法による同期間中の届出数を併記している。

「新規受診」の把握は、「一定期間（ウォッシュアウト期間；今回は3年9ヶ月間）、抗HIV薬の処方を受けず、その後の1年間（今回は2017年）になって抗HIV薬を処方された患者」としている。この場合、「もともとHIV感染の診断を受けていたが4年以上ぶりに処方を再開された患者」は新規患者に誤分類されるが、その数は少ないだろうという前提に立っている。

NDBで集計した患者数は2551人であり、感染症法による届出数1389人に比べ、1.8倍であった。NDBは感染経路や感染地域の情報がないが、年齢階級別の集計では、NDB集計と感染症法届出との乖離は1.2～2.4倍であった。

記述統計の一般論として、集計方法が大きく異なる2つの集計において両者の集計値が大きく乖離していない場合、「どちらの集計値も真の値そのものではないにせよ、両者の推計値付近に真の値が存在するだろう。」という推論が可能である（「大きく乖離していない」としては10倍以内の差を想定）。

HIV感染症におけるNDB集計は既存集計とは集計方法がまったく異なるため、上記の推論を適用できる。NDBにおいて「集計値の答え合わせ先」となる基準的な調査をゴールド・スタンダード・データソース（GSDS；今回は感染症法届出）と呼ぶが、NDB集計とGSDSとの乖離は最大で2.4倍であった。そのため、2017年に新規にHIV感染者またはAIDSと診断された患者数は1389～2551人前後であることが推定される。NDBにも把握漏れがありえるため、真の患者数は3千人弱の可能性はあるが、「本当の新規診断者数は5千人なのに、感染症法届出では把握できていない」といった可能性は今回のNDB集計によりほぼ否定された。さらなる精緻化の必要性は残るにせよ、新規診断者数について感染症法の届出数に一定の妥当性があることがNDB集計により裏打ちされたと考える。

(表3)新規に診断された者の数 (HIV感染者+エイズ患者)(2017年;年齢階級別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数(新規) 〔平成29年1月1日～平成29年12月31日〕 H I V感染者及びエイズ患者の性別、年齢別集計
感染症法	感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 〔平成29年1月1日～平成29年12月31日〕 H I V感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

診断区分		NDBによる患者数	感染症法の届出数	NDBによる患者数/感 染症法の届出数
合計		2,551	1,389	1.8
感染経路	異性間の性的接触	・	248	・
	同性間の性的接触※1	・	935	・
	静注薬物使用	・	4	・
	母子感染	・	4	・
	その他※2	・	44	・
	不明	・	154	・
年齢	10歳未満	<10	4	・ ・ ・
	10～19歳	<10	13	・ ・ ・
	20～29歳	444	362	1.2
	30～39歳	803	429	1.9
	40～49歳	767	351	2.2
	50～59歳	349	148	2.4
	60～69歳	141	58	2.4
	70歳以上	40	23	1.7
	不明	<10	1	・ ・ ・
性	男	2,381	1,313	1.8
	女	170	76	2.2
感染地域	国内	・	1,108	・
	海外	・	98	・
	不明	・	183	・

- 年齢は最終受診時の年齢
- NDB：2017年1月～12月の1年間の新規患者及び抗HIV薬の長期中断後処方再開患者の合計
2013年4月1日から2016年12月31日の3年9ヶ月間に抗HIV薬を処方されていないかつ
2017年1月1日から2017年12月31日の1年間に抗HIV薬の処方があった患者。
- 新規診断患者のほか、2013年4月以前に処方があった後、長期中断後に抗HIV薬の処方を再開した者を含む。
- 抗HIV薬は表11を参照。
- 集計値10未満については「<10」でマスキングしている。
- 集計値10未満やその他のマスキング対象箇所については「・ ・ ・」としている。
- 「・」はNDBからは集計困難な項目。
- ※1 両性間性的接触を含む。
- ※2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

要点：表 4

- 表 4 新規に診断された者の数 (HIV 感染者+エイズ患者) (2017 年) (都道府県別、ウォッシュアウト期間別)

平成 29 年 (2017 年) 1 月 1 日～12 月 31 日の 1 年間に、HIV 感染者または AIDS と新規に診断された患者数を都道府県別に示した。NDB による集計値と感染症法による同期間中の届出数を併記している。†の患者数は、ウォッシュアウト期間を短くして集計した参考値である。なお、NDB における地域情報は「受診医療機関の住所地」(受診地)であり、患者住所地ではない点に注意が必要である。

「新規受診」の定義は表 3 と同様である。

NDB 集計で新規患者数をもっとも多かったのは東京都の 957 人であり、大阪府の 346 人が続いた。都道府県別に見ても、表 3 同様、感染症法届出数と同様の傾向を示した。NDB 集計が感染症法届出数を下回る都道府県はなく、両者の乖離もおおむね 2 倍以内に収まっているため、都道府県間で感染症法に基づく届出や抗 HIV 薬の処方における地域格差は大きくはないことが、今回の NDB 集計で強く示唆された。

(表4)新規に診断された者の数
(HIV感染者+エイズ患者)(2017年;都道府県別、ウォッシュアウト期間別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数(新規) 〔平成29年1月1日～平成29年12月31日〕 H I V感染者及びエイズ患者の性別、年齢別集計の合計値
感染症法	感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 〔平成29年1月1日～平成29年12月31日〕 H I V感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

HIV感染者+エイズ患者

ウォッシュアウト期間	感染症法の届出数 (2017年)	NDBによる患者数 (2017年)	+	
			NDBによる患者数 (2016年)	NDBによる患者数 (2015年)
合計	1389	2551	2915	3151
北海道	34	58	72	63
青森県	6	10	10	...
岩手県	3
宮城県	13	19	36	34
秋田県	0
山形県	4
福島県	12
茨城県	12	29	35	50
栃木県	13	21	30	35
群馬県	13	24	35	23
埼玉県	34	50	60	68
千葉県	51	90	87	94
東京都	456	957	1137	1180
神奈川県	82	152	138	191
新潟県	9	12	...	14
富山県	10	...	10	...
石川県	5	...	13	19
福井県	1
山梨県	7	10
長野県	18	22	...	17
岐阜県	12	12	19	22
静岡県	19	41	37	58
愛知県	67	135	182	174
三重県	...	21	21	18
滋賀県	10	16	15	16
京都府	23	39	48	46
大阪府	174	346	403	461
兵庫県	36	80	71	86
奈良県	7	...	12	22
和歌山県	5	13
鳥取県	4
島根県	1
岡山県	22	34	25	32
広島県	14	27	29	27
山口県	9	11
徳島県	5	11	10	...
香川県	11	12	...	20
愛媛県	6	...	17	15
高知県	6	20
福岡県	78	123	129	120
佐賀県	3
長崎県	6	...	17	14
熊本県	12	20	29	25
大分県	4
宮崎県	11	17	10	15
鹿児島県	18	22	20	13
沖縄県	31	38	51	64

- 都道府県は受診医療機関住所地(受診地)
- 年齢は最終受診時の年齢。
- NDB:2017年1月～12月の1年間の新規患者及び抗HIV薬の長期中断後処方再開患者の合計
2013年4月1日から2016年12月31日の3年9ヶ月間に抗HIV薬を処方されていないかつ
2017年1月1日から2017年12月31日の1年間に抗HIV薬の処方があった患者。
- 新規診断患者のほか、ウォッシュアウト期間中に処方が行われず、その後、抗HIV薬の処方を再開した者を含む。
- ウォッシュアウト期間:NDB上で新規処方を把握するために設定された無処方期間。
- 抗HIV薬は表11を参照。
- 集計値10未満及びその他のマスキング対象箇所については「・・・」としている。

† はウォッシュアウト期間が短いため、処方再開患者を一定数含んでおり、参考値。

要点：表5

● 表5 HIV感染者+エイズ患者（累積）

本表は HIV/AIDS 患者の累積患者数及びその感染経路に関する集計である。表の右側は、感染症法に基づく届出による集計である。

NDB による集計は、平成 25 年（2013 年）4 月 1 日～平成 28 年（2016 年）12 月 30 日の約 3 年 9 ヶ月間に抗 HIV 薬の処方を受けた累積患者数である。NDB には感染経路に関する情報が記載されていないため、全体の患者数以外のほぼすべての箇所が不明（「・」）となっている。

NDB 集計による累積患者数（約 3 年 9 ヶ月間）は、合計で 25570 人となり、感染症法届出の累積患者数 27344 人に近い集計値であった。NDB 集計とゴールド・スタンダード・データソース（GSDS；今回は感染症法届出）が近い数値であるため、累積患者数の真の値はおおむねこの集計値付近と考えると良いものと考えられる。感染症法届出による累積患者数の妥当性が、NDB により裏打ちされたと言える。

NDB は既存の調査では困難なさまざまな集計を提供可能であるが、本表の感染経路のように把握できない事象もある。NDB による集計は決して万能ではなく、レセプトデータの得意不得意を活かしつつ、既存調査では集計困難な事項の集計や、既存調査の集計値の妥当性確認（「答え合わせ」）目的で用いることが望ましいと考えられる。

(表5) HIV感染者＋エイズ患者 (累積)

		NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数情報 平成28年12月30日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の性別患者数									感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 平成28年12月25日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計								
診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計			日本国籍			外国国籍			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
HIV感染者	合計	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14,840	939	15,779	1,629	1,443	3,072	16,469	2,382	18,851
	異性間の性的接触	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2,903	768	3,671	440	847	1,287	3,343	1,615	4,958
	同性間の性的接触※1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	10,391	4	10,395	667	1	668	11,058	5	11,063
	静注薬物使用	・	・	・	・	・	・	・	・	・	41	2	43	27	3	30	68	5	73
	母子感染	・	・	・	・	・	・	・	・	・	18	9	27	5	8	13	23	17	40
	その他※2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	292	39	331	61	27	88	353	66	419
	不明	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,195	117	1,312	429	557	986	1,624	674	2,298
エイズ患者	合計※3	・	・	・	・	・	・	・	・	・	6,815	377	7,192	903	398	1,301	7,718	775	8,493
	異性間の性的接触	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2,158	251	2,409	302	219	521	2,460	470	2,930
	同性間の性的接触※1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	3,269	3	3,272	172	2	174	3,441	5	3,446
	静注薬物使用	・	・	・	・	・	・	・	・	・	28	4	32	26	3	29	54	7	61
	母子感染	・	・	・	・	・	・	・	・	・	9	3	12	1	5	6	10	8	18
	その他※2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	170	23	193	27	15	42	197	38	235
	不明	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,181	93	1,274	375	154	529	1,556	247	1,803
HIV感染者+エイズ患者 合計		・	・	・	・	・	・	23,693	1,877	25,570	21,655	1,316	22,971	2,532	1,841	4,373	24,187	3,157	27,344
凝固因子製剤による感染者※4		・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,421	18	1,439	—	—	—	1,421	18	1,439

- NDBの太枠は、2013年4月1日～2016年12月30日のHIV感染者＋エイズ患者の累計。
- 2013年4月1日～2016年12月30日にレセプトが発生し抗HIV薬が処方された患者。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタを使用した。
- 「・」はNDBからは集計困難な項目。

- ※1 両性間性的接触を含む。
- ※2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。
- ※3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。
- ※4 「血液凝固異常症全国調査」による2015年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数
 感染症法施行後の任意報告数
 (平成11年4月1日～平成28年 373名)
 エイズ予防法※5に基づく法定報告数
 (平成元年2月17日～平成11年 596名)
 凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数 706名

- ※5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。
- ※6 「血液凝固異常症全国調査」による2015年5月31日現在の報告数

要点：表 6

● 表 6 HIV 感染者の死亡（NDB 集計）

HIV/AIDS 患者がどの程度死亡しているかは重要な指標である。

表 6 のうち、上方の表では、平成 25 年度（2013 年度）～平成 29 年度（2017 年度）の 5 年間につき、年度ごとの死亡者数を NDB を用いて算出したものである。

対象者は平成 25 年度（2013 年度）～平成 29 年度（2017 年度）に抗 HIV 薬を処方された患者 28549 人である。この患者数は、新規患者や死亡、受診中断による出入りを通算した累積患者数である（同一患者の名寄せは実施している）。NDB による死亡把握は、レセプトの転帰記載欄に「死亡」が記載された患者を対象としている。同欄に死亡が記載されるのは全死亡の 7 割ほどと推測される。（なお、より精度の高い死亡把握手法を用いた死亡者数を表 7 に掲載した。）

平成 25 年度（2013 年度）～平成 29 年度（2017 年度）の 5 年間における各年度の死亡者は 77～104 人の範囲であった。NDB による死亡者数は、同期間における人口動態統計における「死因：ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病」の死亡者数よりも多い。これは、今回の NDB 集計が「HIV 感染症を有しているヒトの死亡」（HIV 感染症以外で死亡したヒトを含む。）のに対し、人口動態統計は、HIV 感染症を主たる死因として死亡した患者を主な対象としているという違いによる（NDB では主たる死因の情報はない）。

ただし、NDB 集計とゴールド・スタンダード・データソース（GSDS；今回は人口動態統計）の集計値に大きな乖離がないため、HIV 感染症を主たる死因とする死亡者は全国で年間 100 名以下であろうことが NDB から裏打ちされたと言える。

表 6 のうち、下方の表は、平成 25 年度（2013 年度）に抗 HIV 薬を処方されていた患者 17273 人を対象とし、平成 29 年度（2017 年度）までの約 5 年間で何名が死亡したかのコホートを示している。平成 25 年度（2013 年度）に抗 HIV 薬を処方されていた患者は、1 年間に 52～77 人が死亡し、平成 29 年度（2017 年度）末における生存率（≒5 年生存率）は 98.03%であった。

HIV/AIDS 患者は、表 1 にあるように比較的若いのが、本表では年齢調整は講じず、粗死亡者数を示している。

(表6)HIV感染者の死亡（NDB集計）

2013～2017年度における抗HIV薬処方者の死亡者数

抗HIV薬処方者(通算)	死亡者数 (2013年度)	死亡者数 (2014年度)	死亡者数 (2015年度)	死亡者数 (2016年度)	死亡者数 (2017年度)	抗HIV薬処方者 (通算)
NDBによる患者数集計	77	89	102	86	104	28549 †
(参考:人口動態統計による死因:HIV)	45	45	56	66	38	

2013年度に抗HIV薬を処方されていた患者のコホート(死亡者数)

※2013年度に抗HIV薬の処方を受けた患者に限定し、5年間追跡を行ったもの。

HIV感染者のn年生存率	2013年度 抗HIV薬処方者	死亡者数 (2013年度)	死亡者数 (2014年度)	死亡者数 (2015年度)	死亡者数 (2016年度)	死亡者数 (2017年度)	2017年度末での 生存者数
NDBによる患者数集計	17273 †	77	70	65	52	77	16,932
累積死亡数		77	147	212	264	341	
累積死亡率		0.45%	0.85%	1.23%	1.53%	1.97%	
n年生存率		99.55%	99.15%	98.77%	98.47%	98.03%	

† 2013～2017年度に抗HIV薬を処方されたHIV感染者数(実人数)

‡ 2013年度に抗HIV薬を処方されたHIV感染者

- レセプト転帰欄に「死亡」が記載されなかった患者は生存者数にカウントした
- 本集計の死亡数は、レセプトの転帰欄に「死亡」が記載された患者(IDO)数(HIV以外での死亡を含む全死亡)
- 医療管理下でない死亡(交通事故による現場死亡や自殺等)や生活保護へ転換後の死亡は捕捉されないため、実際の死亡よりは若干の過小評価となる。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタを使用した(表11)。

要点：表 7

- 表 7 HIV 感染者における生活習慣病(糖尿病)の合併状況（年齢階級別患者数と死亡者数）

平成 25 年（2013 年）4 月 1 日～平成 30 年（2018 年）3 月 31 日の 5 年間に抗 HIV 薬を処方された患者を対象に、糖尿病の合併状況を示した。代表的な生活習慣病として糖尿病を選択した。

糖尿病を合併していない HIV 感染者、HIV 感染症を合併していない糖尿病患者、糖尿病を合併した HIV 感染者の累積患者数と累積死亡者数（5 年間）を性年齢別に集計している。なお、NDB による死亡把握は、奈良県立医科大学を中心とするチームが開発した「死亡特定ロジック」を用いた（表 6 で使用したレセプト転帰欄の死亡記載よりも、死亡を把握する精度が高い）。

本表は、HIV 感染症が慢性疾患化する中で重要となってきた、HIV 感染者の糖尿病合併状況を示している。日本全国では、男女合わせて 1850 名ほどの糖尿病合併 HIV 感染症の患者が存在し、対応が必要であることが分かる。

NDB を用いると、従来の調査では把握しづらかった併存疾患（や治療状況）が比較的容易に集計できるという一例である。本集計は性年齢階級別であるが、都道府県別などの地域別の集計も可能である。

なお、HIV 感染症と糖尿病の年齢調整死亡率の比較は表 8 に示している。

（糖尿病の有無とは独立の「HIV 感染者の 5 年間の累積患者数」は、NDB のマスキング規制の関係から本表には掲載していない。）

(表7) HIV感染者における生活習慣病(糖尿病)の合併状況 (年齢階級別患者数と死亡者数)

全NDB	NDB全体の患者数と死亡者数 〔平成25年4月1日～平成30年3月31日〕
HIV感染症	「抗HIV薬マスタ」(表11)の抗HIV薬を処方された患者数と死亡者数(糖尿病患者は除く) 〔平成25年4月1日～平成30年3月31日〕
糖尿病	糖尿病薬を処方されかつ糖尿病病名をつけられた患者数と死亡者数(HIV感染症患者は除く) 〔平成25年4月1日～平成30年3月31日〕
HIV感染症かつ糖尿病	HIV感染症かつ糖尿病の患者数と死亡者数 〔平成25年4月1日～平成30年3月31日〕
患者数	観察期間中に医療保険を使用した当該患者数
死亡者数	当該患者数のうち観察期間中に死亡が確認された数

男性		HIV感染症 (糖尿病除く)		糖尿病 (HIV除く)		HIV感染症かつ糖尿病		全NDB(基準集団)	
性別	年齢階級	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数
男女	全年齢	26,699	358	9,960,609	1,108,961	1,850	...	150,328,339	5,025,291
男性	全年齢	24,733	340	5,836,576	661,210	1,744	127	70,958,283	2,592,348
男性	00-04歳	1,046	166	3,102,760	10,862
男性	05-09歳	1,048	34	3,320,381	2,097
男性	10-14歳	1,647	42	3,344,096	1,602
男性	15-19歳	16	...	4,233	103	3,715,576	2,658
男性	20-24歳	400	...	9,158	186	4,005,436	3,900
男性	25-29歳	1,687	...	18,006	242	3,985,969	4,287
男性	30-34歳	2,789	11	36,927	412	27	...	4,223,077	5,338
男性	35-39歳	3,713	23	71,590	863	76	...	4,496,348	8,274
男性	40-44歳	4,764	45	157,829	2,137	176	...	5,123,582	15,470
男性	45-49歳	4,154	41	270,190	4,450	313	17	4,972,581	23,994
男性	50-54歳	2,720	34	355,942	7,801	268	17	4,265,949	35,618
男性	55-59歳	1,599	20	457,144	14,258	209	12	4,011,352	57,523
男性	60-64歳	1,129	42	625,696	29,988	229	20	4,322,916	108,729
男性	65-69歳	972	37	961,190	65,535	218	17	5,091,733	211,550
男性	70-74歳	435	28	888,033	89,088	125	14	4,043,032	275,115
男性	75-79歳	229	32	810,106	119,453	63	11	3,450,211	377,404
男性	80-84歳	83	14	648,372	143,469	25	...	2,701,831	509,954
男性	85-89歳	30	...	369,195	117,638	1,776,396	518,560
男性	90-94歳	124,317	51,697	781,093	303,971
男性	95-99歳	22,323	12,051	192,221	96,897
男性	100歳以上	2,584	1,597	31,743	18,545

女性		HIV感染症 (糖尿病除く)		糖尿病 (HIV除く)		HIV感染症かつ糖尿病		全NDB(基準集団)	
性別	年齢階級	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数
男女	全年齢	26,699	358	9,960,609	1,108,961	1,850	...	150,328,339	5,025,291
女性	全年齢	1,966	18	4,124,033	447,751	106	...	79,370,056	2,432,943
女性	00-04歳	942	137	2,969,448	9,204
女性	05-09歳	1,155	30	3,174,858	1,677
女性	10-14歳	2,057	48	3,158,973	1,128
女性	15-19歳	4,175	69	3,499,498	1,517
女性	20-24歳	30	...	9,025	110	4,516,425	2,482
女性	25-29歳	52	...	19,451	152	4,729,494	3,765
女性	30-34歳	155	...	39,388	326	4,869,600	6,226
女性	35-39歳	276	...	56,592	570	5,008,020	8,940
女性	40-44歳	377	...	79,669	1,097	10	...	5,565,757	13,634
女性	45-49歳	360	...	107,758	1,859	10	...	5,390,665	18,667
女性	50-54歳	261	...	146,004	3,191	20	...	4,630,358	25,723
女性	55-59歳	158	...	214,344	5,520	11	...	4,359,727	35,804
女性	60-64歳	108	...	324,837	11,596	4,526,081	58,816
女性	65-69歳	76	...	558,053	23,860	10	...	5,358,768	103,148
女性	70-74歳	56	...	596,383	34,424	4,501,452	134,757
女性	75-79歳	31	...	616,585	54,113	4,052,901	208,443
女性	80-84歳	13	...	574,933	83,630	3,485,920	355,193
女性	85-89歳	440,966	102,872	2,841,130	518,955
女性	90-94歳	242,881	82,903	1,815,027	534,504
女性	95-99歳	76,347	34,370	734,578	298,428
女性	100歳以上	12,488	6,874	181,376	91,932

- 集計対象期間は2013年4月1日～2018年3月31日まで。
- 年齢階級は最終受診時の年齢。
- 「HIV感染症」は抗HIV薬(表11)を2013年4月～2018年3月の5年間に1回以上処方された患者として定義した。
- 「糖尿病」は2013年4月～2018年3月の5年間に糖尿病病名が1回以上付けられかつ糖尿病薬を1回以上処方された患者として定義した。
- NDBにおける死亡の把握には奈良医大等が開発した「死亡ロジック」を使用した。
- 集計値10未満及びその他のマスキング対象箇所については「...」としている。

要点：表 8

● 表 8 HIV 感染者の年齢調整死亡率・糖尿病患者集団との比較

本表は、「抗 HIV 薬を処方された患者」（HIV/AIDS 患者）または「糖尿病の治療薬を処方された患者」を対象として、平成 25 年度（2013 年度）～平成 29 年度（2017 年度）の死亡者数を算出し、間接法による年齢調整死亡率（SMR）を算出したものである。糖尿病患者の死亡率を 100 とし、100 を超えると糖尿病患者よりも年齢調整死亡率が高くなる。なお、NDB による死亡把握は、レセプトの転帰記載欄に死亡が記載された患者を対象としている。

男性の HIV/AIDS 患者の SMR（対糖尿病患者）は 58 であった。患者の年齢分布の違いを調整すると、男性の HIV/AIDS 患者は男性の糖尿病患者に比べ、死亡率（亡くなるスピード）が 0.58 倍であることが明らかとなった。女性や男女合計は、女性の対象者数が少ないため、参考値である。

かつては死の病として恐れられた HIV 感染症も、ART の普及や医療体制の充実により生存率が大きく向上し、慢性疾患化している状況が、NDB 集計からも明らかとなった。

(表8) HIV感染者の年齢調整死亡率・糖尿病患者集団との比較

日本の糖尿病患者（HIV感染者を除く）を基準集団としたときの抗HIV薬処方患者（糖尿病合併者を除く）のSMR
（対象者の年齢構成を調整した死亡率。糖尿病患者の死亡率：100）

男性	58
(女性)	43
(男女)	57

- 2013～2017年度に「抗HIV薬を処方された患者」と「糖尿病治療中の患者」における死亡が対象
- 期間内にレセプトの転帰欄に「死亡」が記載された人数（原疾患以外での死亡を含む）
- 医療管理下でない死亡（交通事故による現場死亡や自殺等）や生活保護へ転換後の死亡は捕捉されないため、実際の死亡よりは若干の過小評価となる。
- 糖尿病患者、HIV感染者のあるなしの4群に分けて死亡数と非死亡数を集計し、それをもとにSMRを算出した。
- 女性、男女については対象者が少ないため参考値
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタを使用した（表11）。

要点：表 9

● 表 9 HIV 感染者 + エイズ患者（新規）（年齢階級別）

平成 29 年（2017 年）1 月 1 日～3 月 31 日の 3 ヶ月間に、HIV 感染者または AIDS 患者と新規に診断された患者数を示した。NDB による集計値と感染症法による同期間中の届出数を併記している。

「新規受診」の把握は、表 3 とほぼ同様である。ウォッシュアウト期間は 3 年 9 ヶ月間で変わらないが、新規受診の集計期間が 3 ヶ月間と短い。

集計期間が短いため、集計の誤差が大きい。また、集計値（患者数）が小さいためマスキングが多く発生する。本資料では、その改善版として、新規受診の集計期間を 1 年間とした表 3 を算出し、掲載している。この表 9 は第 153 回エイズ動向委員会（2019 年 8 月）に提出した表の再掲であるが、集計期間の設定が適切でない場合の集計例として収載した。

(表9)HIV感染者＋エイズ患者(新規)(年齢階級別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数(新規) 〔平成29年1月1日～平成29年3月31日〕 HIV感染者及びエイズ患者の性別、年齢別集計
感染症法	感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 〔平成28年12月26日～平成29年3月26日〕 HIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

診断区分		男		女		計	
		NDBによる患者数	感染症法の届出	NDBによる患者数	感染症法の届出	NDBによる患者数	感染症法の届出
合計		564	313	36	12	600	325
感染経路	異性間の性的接触	・	45	・	8	・	53
	同性間の性的接触※1	・	237	・	0	・	237
	静注薬物使用	・	1	・	0	・	1
	母子感染	・	0	・	0	・	0
	その他※2	・	3	・	1	・	4
	不明	・	27	・	3	・	30
年齢	10歳未満	<10	0	<10	0	<10	0
	10～19歳	<10	0	<10	0	<10	0
	20～29歳	95程度	88	<10	1	100	89
	30～39歳	190程度	91	<10	7	198	98
	40～49歳	162	86	11	0	173	86
	50～59歳	87	33	10	3	97	36
	60～69歳	20程度	10	<10	1	23	11
	70歳以上	<10	5	<10	0	<10	5
	不明	<10	0	<10	0	<10	0
感染地域	国内	・	258	・	7	・	265
	海外	・	17	・	1	・	18
	不明	・	38	・	4	・	42

●NDB集計：2017年1月～3月の新規(抗HIV薬処方開始)患者

2013年4月1日から2016年12月31日までに抗HIV薬を処方されていないかつ
2017年1月1日から2017年3月31日までに新たに抗HIV薬を処方された患者。

●年齢は最後の医療保険使用時の年齢階級を使用。

●抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタを使用した(表11)。

●「・」はNDBからは集計困難な項目。

●集計値10未満については「<10」でマスキングしている。

●10未満の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

※1 両性間性的接触を含む。

※2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

要点：表 10

● 表 10 HIV 感染者 + エイズ患者 新規・累計（都道府県別・ブロック別）

平成 29 年（2017 年）1 月 1 日～3 月 31 日の 3 ヶ月間に、HIV 感染者または AIDS と新規に診断された患者数及び累計患者数を都道府県別に示した。NDB による集計値と感染症法による同期間中の届出数を併記している。

「新規受診」の把握は、表 3、表 9 と同様である。ウォッシュアウト期間は 3 年 9 ヶ月間であり、新規受診の集計期間は 3 ヶ月間である。

表 10 も、集計期間が短いため集計の誤差が大きくなりがちであり、改善版として、新規受診の集計期間を 1 年間とした表 4 を収載している。

(表10)HIV感染者+エイズ患者 新規・累計(都道府県別・ブロック別)

NDB	HIV感染者・エイズ患者集計 新規・累積(都道府県別集計) (平成29年1月1日～平成29年3月31日) HIV感染者+エイズ患者
感染症法	感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報HIV感染者及びエイズ患者の都道府県別累積報告状況 (平成28年12月26日～平成29年3月26日) HIV感染者+エイズ患者

ブロック名	都道府県名	今回新規(2017年1月～3月)				前回新規(2016年10月～12月)				累計(感染症法は1985年～、NDBは2013年4月～2017年3月)								
		報告地		〔居住地〕		報告地		〔居住地〕		報告地		〔居住地〕		報告地		〔居住地〕		
		NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	
北海道	1 北海道	19	11	・	[11]	12	10	・	[9]	493	477	388	・	[274]	1.9%	1.7%	・	[2.0%]
	2 青森県	<10	1	・	[1]	<10	2	・	[1]	87	84	69	・	[34]	0.3%	0.3%	・	[0.3%]
	3 岩手県	<10	1	・	[1]	<10	0	・	[0]	49	63	40	・	[28]	0.2%	0.2%	・	[0.2%]
	4 宮城県	<10	5	・	[5]	<10	5	・	[4]	258	228	198	・	[119]	1.0%	0.8%	・	[0.9%]
	5 秋田県	<10	0	・	[0]	<10	0	・	[0]	44	47	43	・	[19]	0.2%	0.2%	・	[0.1%]
	6 山形県	<10	0	・	[0]	<10	1	・	[0]	40	51	34	・	[19]	0.2%	0.2%	・	[0.1%]
	7 福島県	<10	1	・	[1]	<10	5	・	[4]	81	126	69	・	[64]	0.3%	0.5%	・	[0.5%]
	ブロック計	16	8	・	[8]	<10	13	・	[9]	559	599	453	・	[283]	2.1%	2.2%	・	[2.4%]
関東甲信越	8 茨城県	<10	3	・	[4]	<10	2	・	[2]	384	866	306	・	[228]	1.5%	3.1%	・	[1.7%]
	9 栃木県	<10	1	・	[1]	<10	0	・	[0]	330	446	271	・	[135]	1.3%	1.6%	・	[1.0%]
	10 群馬県	<10	3	・	[2]	<10	4	・	[3]	261	341	204	・	[126]	1.0%	1.2%	・	[0.9%]
	11 埼玉県	<10	7	・	[9]	10	4	・	[5]	539	890	432	・	[633]	2.1%	3.2%	・	[4.7%]
	12 千葉県	21	11	・	[15]	22	17	・	[16]	788	1,351	616	・	[627]	3.0%	4.9%	・	[4.6%]
	13 東京都	217	112	・	[87]	256	99	・	[79]	10,381	9,248	8,487	・	[3,723]	39.7%	33.4%	・	[27.5%]
	14 神奈川県	38	21	・	[16]	39	25	・	[23]	1,499	1,904	1,206	・	[909]	5.7%	6.9%	・	[6.7%]
	15 新潟県	<10	3	・	[2]	<10	0	・	[0]	118	155	101	・	[58]	0.5%	0.6%	・	[0.4%]
	16 山梨県	<10	2	・	[2]	<10	0	・	[1]	74	166	60	・	[51]	0.3%	0.6%	・	[0.4%]
	17 長野県	<10	4	・	[3]	<10	1	・	[2]	279	509	236	・	[120]	1.1%	1.8%	・	[0.9%]
ブロック計	318	167	・	[141]	348	152	・	[131]	14,653	15,876	11,919	・	[6,610]	56.0%	57.4%	・	[48.9%]	
北陸	18 富山県	<10	2	・	[3]	<10	2	・	[2]	65	73	56	・	[35]	0.2%	0.3%	・	[0.3%]
	19 石川県	<10	3	・	[2]	<10	0	・	[0]	143	121	119	・	[72]	0.5%	0.4%	・	[0.5%]
	20 福井県	<10	0	・	[0]	<10	0	・	[0]	53	82	43	・	[44]	0.2%	0.3%	・	[0.3%]
	ブロック計	<10	5	・	[5]	<10	2	・	[2]	261	276	218	・	[151]	1.0%	1.0%	・	[1.1%]
東海	21 岐阜県	<10	1	・	[0]	<10	6	・	[5]	149	286	123	・	[203]	0.6%	1.0%	・	[1.5%]
	22 静岡県	<10	4	・	[4]	<10	3	・	[3]	427	635	338	・	[250]	1.6%	2.3%	・	[1.8%]
	23 愛知県	34	16	・	[16]	40	25	・	[25]	1,570	1,708	1,271	・	[1,058]	6.0%	6.2%	・	[7.8%]
	24 三重県	<10	2	・	[3]	<10	3	・	[2]	160	248	133	・	[128]	0.6%	0.9%	・	[0.9%]
	ブロック計	47	23	・	[23]	57	37	・	[35]	2,306	2,877	1,865	・	[1,639]	8.8%	10.4%	・	[12.1%]
近畿	25 滋賀県	<10	3	・	[2]	<10	5	・	[2]	142	147	113	・	[86]	0.5%	0.5%	・	[0.6%]
	26 京都府	10	4	・	[5]	<10	3	・	[2]	392	369	315	・	[206]	1.5%	1.3%	・	[1.5%]
	27 大阪府	85	48	・	[38]	93	63	・	[60]	3,438	3,250	2,710	・	[1,865]	13.1%	11.7%	・	[13.8%]
	28 兵庫県	18	5	・	[8]	12	12	・	[12]	678	640	550	・	[456]	2.6%	2.3%	・	[3.4%]
	29 奈良県	<10	1	・	[1]	<10	0	・	[0]	165	182	139	・	[108]	0.6%	0.7%	・	[0.8%]
	30 和歌山県	<10	0	・	[0]	<10	0	・	[0]	84	116	73	・	[62]	0.3%	0.4%	・	[0.5%]
	ブロック計	119	61	・	[54]	121	83	・	[76]	4,899	4,704	3,900	・	[2,783]	18.7%	17.0%	・	[20.6%]
中国四国	31 鳥取県	<10	1	・	[1]	<10	0	・	[0]	38	33	28	・	[22]	0.1%	0.1%	・	[0.2%]
	32 島根県	<10	1	・	[1]	<10	1	・	[1]	24	28	19	・	[13]	0.1%	0.1%	・	[0.1%]
	33 岡山県	<10	5	・	[5]	<10	3	・	[3]	212	222	186	・	[139]	0.8%	0.8%	・	[1.0%]
	34 広島県	<10	2	・	[2]	<10	4	・	[3]	297	339	259	・	[215]	1.1%	1.2%	・	[1.6%]
	35 山口県	<10	1	・	[1]	<10	1	・	[1]	73	87	55	・	[57]	0.3%	0.3%	・	[0.4%]
	36 徳島県	<10	2	・	[1]	<10	3	・	[3]	53	65	46	・	[48]	0.2%	0.2%	・	[0.4%]
	37 香川県	<10	1	・	[1]	<10	0	・	[0]	103	108	86	・	[77]	0.4%	0.4%	・	[0.6%]
	38 愛媛県	<10	0	・	[0]	<10	4	・	[3]	130	137	108	・	[68]	0.5%	0.5%	・	[0.5%]
	39 高知県	<10	1	・	[1]	<10	2	・	[3]	69	69	63	・	[48]	0.3%	0.2%	・	[0.4%]
	ブロック計	22	14	・	[12]	26	18	・	[17]	999	1,088	850	・	[687]	3.8%	3.9%	・	[5.1%]
九州沖縄	40 福岡県	34	19	・	[21]	35	23	・	[18]	911	805	772	・	[566]	3.5%	2.9%	・	[4.2%]
	41 佐賀県	<10	0	・	[0]	<10	5	・	[5]	33	53	26	・	[53]	0.1%	0.2%	・	[0.4%]
	42 長崎県	<10	0	・	[0]	<10	1	・	[1]	105	83	86	・	[45]	0.4%	0.3%	・	[0.3%]
	43 熊本県	<10	0	・	[0]	11	9	・	[9]	200	153	166	・	[96]	0.8%	0.6%	・	[0.7%]
	44 大分県	<10	3	・	[0]	<10	1	・	[1]	76	86	63	・	[57]	0.3%	0.3%	・	[0.4%]
	45 宮崎県	<10	2	・	[2]	<10	1	・	[1]	104	95	89	・	[72]	0.4%	0.3%	・	[0.5%]
	46 鹿児島県	<10	4	・	[5]	<10	4	・	[4]	155	154	125	・	[96]	0.6%	0.6%	・	[0.7%]
	47 沖縄県	10	8	・	[5]	<10	4	・	[3]	416	343	324	・	[205]	1.6%	1.2%	・	[1.5%]
ブロック計	57	36	・	[33]	74	48	・	[42]	2,000	1,772	1,651	・	[1,190]	7.6%	6.4%	・	[8.8%]	
合計	600	325	・	[287]	654	363	・	[321]	26,170	27,669	21,244	・	[13,521]	100%	100%	・	[100.0%]	

「今回」のNDB集計：2017年1月～3月の新規患者(抗HIV薬処方開始)

- 2013年4月1日から2016年12月31日までに抗HIV薬を処方されていないかつ2017年1月1日から2017年3月31日までに新たに抗HIV薬を処方された患者。

「前回」のNDB集計：2016年10月～12月の新規患者(抗HIV薬処方開始)

- 2013年4月1日から2016年9月30日までに抗HIV薬を処方されていないかつ2016年10月1日から2016年12月31日までに新たに抗HIV薬を処方された患者。

「累計」のNDB集計：2013年4月～2017年3月の通院患者(抗HIV薬処方)

- 2013年4月1日から2017年3月31日までに1回以上抗HIV薬を処方された患者数
- 「NDB継」：上記のうち、2017年1月～3月に抗HIV薬処方がある患者(継続受診中患者)。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタを使用した(表11)。

● 報告地：昭和60年から集計

● 〔居住地〕：最近数年間の主な居住地(平成19年4月から記載)

後天性免疫不全症候群発生届出(抜粋)
①最近数年間の主な居住地
1) 日本国内(都道府県)
2) その他()
3) 不明

● 「・」はNDBからは集計困難な項目。

要点：表 1 1

● 表 11 抗 HIV 薬一覧（マスタ）

この提出資料では、HIV/AIDS 患者の定義として、「抗 HIV 薬の処方を受けている患者」と定義した。今回の集計期間においては、抗 HIV 薬は HIV 感染症以外には使用されないと考えられており、また、抗 HIV 薬を処方して診療報酬請求を行わない例があるとも考えにくいためである。

ただし、2020 年以降は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して一部の抗 HIV 薬が投与されており、2020 年 1 月以降の集計期間については、集計設計を変更する必要がある。具体的には、「2019 年までに抗 HIV 薬を一度も処方されておらず、2020 年以降において、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の病名が付与されている患者」を除外するなどの対応が必要となる。ただし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を合併した HIV/AIDS 患者はこの除外基準に該当してしまうため、さらなる検討が必要となるであろう。

(表11) 抗HIV薬一覧(マスタ)

医薬品コード	HIV薬名称	略名	一般名	作用機序	1錠あたりの容量	配合剤
620005140	レトロビルカプセル100mg	AZT(ZDV)	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
610443081	ヴァイテックスECカプセル125 125mg	ddI	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	125	0
610443082	ヴァイテックスECカプセル200 200mg	ddI	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620000425	エビビル錠150 150mg	3TC_150mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	0
620000426	エビビル錠300 300mg	3TC_300mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
610412192	ゼリットカプセル15 15mg	d4T	ザノルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	15	0
610412193	ゼリットカプセル20 20mg	d4T	ザノルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	20	0
621144201	コンビビル配合錠	COM	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621144201	コンビビル配合錠	COM	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	1
620004998	ザイアジェン錠300mg	ABC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
620001903	ピリアード錠300mg	TDF	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
621657001	エブジコム配合錠	EZC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
621657001	エブジコム配合錠	EZC	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620002488	エムトリカプセル200mg	FTC	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
610421341	ピラミューン錠200 200mg	NVP	ネビラピン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620006943	ストックリン錠600mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	600	0
621932401	ストックリン錠200mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620009086	インテンス錠100mg	ETR	エトラビル	非核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
622149101	エジュラント錠25mg	RPV	リルビリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	0
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	リルビリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620004975	クリキシバンカプセル200mg	IDV	硫酸インジナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620003516	インビラーゼカプセル200mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620004347	インビラーゼ錠500mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	500	0
621143701	ピラセプト錠250mg	NFV	メシル酸ネルフィナビル	プロテアーゼ阻害薬	250	0
621143601	ノービア内用液8% 80mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	80	0
622054801	ノービア錠100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	100	0
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	ロピナビル	プロテアーゼ阻害薬	80mg/mL	1
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	20mg/mL	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	ロピナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	5	1
620000454	レイアタツカプセル150mg		硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	150	0
620000455	レイアタツカプセル200mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620002465	レクソパ錠700 700mg	FPV	ホスアンプレナビルカルシウム水和物	プロテアーゼ阻害薬	700	0
620005884	ブリジスタ錠300mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	300	0
622276701	ブリジスタナイーブ錠800mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	0
622403501	ブリジスタ錠600mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	600	0
620007815	アイセントレス錠400mg	RAL	ラルテグラビルカリウム	インテグラール阻害薬	400	0
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エルテグラビル	インテグラール阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	コピシタット	CYP3A阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
622336201	デビケ錠50mg	DTG	ドルテグラビルナトリウム	インテグラール阻害薬	50	0
622408801	トリームク配合錠	TRI	ドルテグラビルナトリウム	インテグラール阻害薬	50	0
622408801	トリームク配合錠	TRI	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
622408801	トリームク配合錠	TRI	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620009087	シーエルセントリ錠150mg	MVC	マラビロク	CCR5阻害薬	150	0
621930301	ブリジスタナイーブ錠400mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	400	0
622522601	デシコピ配合錠LT	DVY-LT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
622522601	デシコピ配合錠LT	DVY-LT	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622522501	デシコピ配合錠HT	DVY-HT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622522501	デシコピ配合錠HT	DVY-HT	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622532301	プレジコピックス配合錠	PCX	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	1
622532301	プレジコピックス配合錠	PCX	コピシタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エルテグラビル	インテグラール阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	コピシタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	フマル酸テノホビルアラフェラミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
610409330	ハイビット錠0.375	ddC	ザルシタピン	2008年3月販売中止	0.375	0

●上記の薬剤を1回以上処方された患者をHIV感染症患者として集計した。

別紙4

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
西岡祐一, 野田龍也, 今村知明	世界最大の医療ビッグデータNDB (ナショナルデータベース) の活用と今後の展望	日本整形外科学会雑誌	93	959-979	2019

令和2年3月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人奈

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 細井 裕司

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・准教授
(氏名・フリガナ) 野田 龍也・ノダ タツヤ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	奈良県立医科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月11日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人奈良県立医科大学

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 細井 裕司



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 HIV感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・助教
(氏名・フリガナ) 西岡 祐一・ニシオカ ユウイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	奈良県立医科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。